

受講ガイド

令和8年度登録用



受講登録で大事なこと	P1～
教科ごとの説明	P3～
必修・自由選択の科目紹介	P16～
1年次必修科目	P16～
2年次必修科目	P23～
3年次必修科目	P29～
自由選択科目	P32～
必修科目の再履修用講座一覧	P54
受講条件一覧	P55

東京都立世田谷泉高等学校

受講登録で大事なこと - 必ず読みましょう -



I. はじめに

受講登録は、① **必修科目** ② **選択科目** の順に行ってください。また、1単位 1,740円×登録単位数（最高約5万円）の授業料額が決まる作業です。この受講ガイドを読んで慎重に決めましょう。

II. 用語について

この受講ガイドに登場する下記の用語の意味を理解して、読み進めましょう。

「登録」：講座を受講する一員となること。

「受講」：講座に出席して学習すること。

「履修」：講座の出席が1年間で基準をみたし、学習したと認められたこと。

*所定以上欠席した場合、「**未履修**」となり、評定がつかず、単位も修得できません。

「修得」：履修となり、かつ、学習成果が一定以上に達したという成績で認定されたこと。

評定1は「**未修得**」となり、単位は修得できません。

3年以上在籍し、必修科目をすべて履修し、74単位以上を修得することで卒業できます。

「**必登録講座**」：卒業時まで**に必ず登録しなければならない講座**（産業社会と人間、生活実践）

「**必修講座**」：卒業時まで**に必ず履修しなければならない講座**

III. 講座の決め方

(1) 必修科目の登録

① **必修科目は自部の時間帯**で選びましょう。

(2) 選択科目の登録

① **1年間で登録できる単位数の上限は29単位**です。この単位数は、必修科目の講座と選択科目の講座を合わせたものです。

② 登録できる時間帯は、自部と他部の時間帯を合わせて

I部生:1~8時限 / II部生:3~10時限 / III部生:5~12時限 です。

③ 科目によっては「**登録条件**」が設けられています。必ず確認をしてください。

(3) 必修科目の再登録

① 必修科目が未履修の場合、在学中に当該科目を**再登録**し、履修しなければなりません。

② 「**単独の再履修講座**」と「**下の年次の必修講座に混ざって授業を受け直す講座**」の2種類に分かれます。単独の再履修講座には、講座名の末尾に「再」が記載されています。間違っ
て申請しないようにしましょう。巻末にも一覧表がありますので参照してください。

●**単独の再履修講座**

保健I再、保健II再、美術I自、工芸I自、情報I再

●**下の年次に混ざって授業を受け直す講座**

現代の国語、言語文化、数学I、体育I、体育II、体育III、音楽I、書道I、英語コミュニケーションI、家庭基礎、生活実践、人間と社会、探究基礎、課題研究

③ 芸術I（美術I・音楽I・工芸I・書道I）が未履修である場合、再登録する講座は美術I・音楽I・工芸I・書道Iのいずれを選んで問題ありません。

- ④ 評定1（未修得）だった科目は再登録可能です。（必履修・選択科目ともに）
- ⑤ 「年次指定の必履修講座」と「再履修講座」が同じ時間帯に設置されている場合、原則、「年次指定の必履修講座」が優先です。「再履修講座」は他部の時間帯で登録しましょう。

IV. 変更点等

新 設	「実践国語」 「食 物」（「食物Ⅰ」、「食物Ⅱ」と同等の科目）
名称変更	「物理演習」→「物理実践」 「化学演習」→「化学実践」

V. 受講登録スケジュール

- 11月6日（木） 受講登録説明会・教科別説明会（科目調べ）
12月登録 電子申請受付開始
- 12月4日（木） 12月登録 電子申請受付❌切
- 12月11日（木） 12月登録 結果発表
12月再登録 電子申請受付開始（対象：落選者・誤登録者）
- 12月18日（木） 12月再登録 電子申請受付❌切
- 12月23日（火） 12月再登録 結果発表
- 1月13日（火） 閉講講座の決定（予定）
- 1月19日（月） 1月登録 電子申請受付開始
- 1月27日（火） 1月登録 電子申請受付❌切
- 1月30日（金） 1月登録 結果発表
- 3月17日（火） 令和8年度個人時間割表 配布

期限に遅れたり、誤登録があったりすると、希望する授業が受けられなくなってしまいます。計画的に、かつ丁寧に、取り組みましょう！



1 教科の特徴

日本語を正しく表現し、理解する力を育てるのが『国語』の授業です。

1 年次必履修科目の「現代の国語」は、主に評論文を扱います。2 年次必修科目の「言語文化」は古典（古文・漢文）と小説を扱います。「話す・聞く」「書く」「読む」ことの総合的な学習を通して、高校生としての基本的な読解力、表現力、語彙力を身に付けることを目標として学びます。年度初めのテストで、習熟度別クラス（甲・乙）を編成します。

選択科目は6講座を設置しています。普通科目の「現代文演習」は現代文のみ、「古典演習」は古文・漢文のみを教材とし、必履修科目の発展科目として読解力を養うことを中心に学びます。表現系列の「日本語コミュニケーション実践」「演劇」では、言語表現や身体表現を通じた自己表現と自己及び他者理解について学んでいきます。「作文演習」では、語句の知識や文章力、表現力を養います。「実践国語」では社会人としての必要な基礎知識を身に付けていきます。

2 受講のすすめ

下記表を参考にして、各自の興味や関心、進路などに合わせて履修していくとよいでしょう。

	1 年次	2 年次	3 年次以降
必修	現代の国語	言語文化	
選択		作文演習	
選択		日本語コミュニケーション実践（日コミ）	
選択		演劇	
選択			現代文演習
選択			古典演習
選択			実践国語（令和 8 年度より）

3 注意事項

どの科目も積極的な授業への取り組みが重視されることはいうまでもありません。振り返りテスト・小テスト・提出物（ワークシート、演習プリント、ノート、レポート、長期休業期間中の課題など）・出席状況・授業態度などの学習の積み重ねを総合的に評価します。「日本語コミュニケーション実践」「演劇」では、特に継続的な出席が不可欠です。

4 設置科目と登録条件

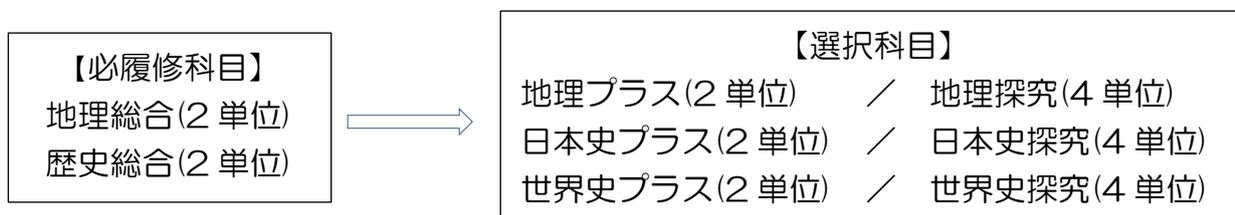
科目名	科目紹介	登録条件
現代の国語	主に評論文・随筆の学習。	1 年次必履修科目
言語文化	主に古典（漢文・古文）・小説の学習。	2 年次必履修科目
作文演習	語句の知識や文章力、表現力を養う。	2 年次生以上であること
日コミ	言語表現・スピーチ力を養う。	2 年次生以上であること
演劇	身体表現・自己表現力を養う。	2 年次生以上であること
現代文演習	現代文の読解力を養う。	3 年次生以上であること
古典演習	古典の読解力を養う。	3 年次生以上であること
実践国語	国語常識の力を養う。（SPI など）	3 年次生以上であること

※ 5・6 年次生で国語総合を履修していない場合は、現代の国語及び言語文化を履修すること。

※ 5・6 年次生で国語総合を履修している場合は、現代の国語及び言語文化は履修できません。

1 教科の特徴

地理歴史科は、現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史を学ぶ教科です。社会のさまざまなことからの空間的なひろがりや時間的な経緯などについて知り、空間や時間に関することについて考えていく力を身につけ、近い将来の自分の生き方や生活について考えることを目指します。必履修科目 2 つ、選択科目 6 つで構成され、授業を履修する順番が決まっています。



2 受講のすすめ

「地理総合」は 1 年次に全員学びます。地理を深く学びたい人は 2 年次以上で「地理探究」を履修してください。「歴史総合」は 2 年次で原則学びますが、「日本史探究」「世界史探究」を早く履修したい人のために 1 年次限定の「歴史総合」を設置しました。歴史を深く学びたい人は、1 年次に「歴史総合」を登録し、2 年次から「日本史探究」や「世界史探究」を登録してください。

3 注意事項

「地理総合」2 単位と「歴史総合」2 単位を卒業までに履修しなければなりません。

※大学進学を考えている人は大学によって「地理探究」「日本史探究」「世界史探究」を履修していることが求められる場合もありますので、気をつけてください。探究科目は 4 単位のため、週に 2 日授業があります。他に取りたい科目と重なることもありえますので、計画的に登録してください。

※2 単位の選択科目「地理プラス」「日本史プラス」「世界史プラス」は、受験科目では利用しないが、地歴をさらに学びたい人向けです。

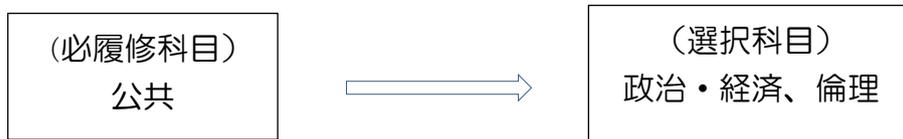
4 設置科目と登録条件

科目名	科目紹介	登録条件
地理総合	様々な人々のくらしや SDGs について	1 年次必履修科目
歴史総合	近現代を中心に世界と日本についての歴史を学習	2 年次必履修科目(※探究科目を 2 年次で選択したい場合は 1 年次で登録可)
地理探究	現代世界の系統地理を中心に学習・探究	「地理総合」を履修していること
日本史探究	日本史の通史学習・探究	「歴史総合」を履修していること
世界史探究	世界史の通史学習・探究	同プラス科目との同時登録は不可
地理プラス	日本地理(地形・気候・産業・文化)	2 年次以上対象講座 「地理 A」を履修した者は不可
日本史プラス	日本の近代以前(古代～)の歴史を学習	2 年次以上対象講座
世界史プラス	世界の近代以前(古代～)の歴史を学習	同探究科目との同時登録は不可 同演習科目を履修した者は不可

1 教科の特徴

より良い社会、より良い生き方とはなにかを考えるために、現代社会の特徴や課題、生き方を支える様々な思想や宗教について学習する教科が公民です。

必履修科目 1 つ、選択科目 2 つで構成され、授業を履修する順番が決まっています。



必履修科目「公共」を履修した後、選択科目「政治・経済」「倫理」を登録できます。

2 受講のすすめ

必履修科目「公共」は、公共的な空間に生きる私たちに必要な、政治や経済などの基礎的な知識や見方・考え方を学びます。公共を履修すると、より詳しく学習できる選択科目「政治・経済」「倫理」を登録できます。

基本的に「公共」は 2 年次の必履修科目なので、選択科目の 2 科目は 3 年次にならないと受講できません。

もっと早くに政治や経済、思想や哲学をより深く知ってみたい…！

そのような生徒のために、1 年次の希望者向け「公共」を設置しました。人数は 30 人×3 講座と全員を受け入れる枠はありませんが、公共を先取りして政治・経済や倫理を 2 年次以降に受講できるようにすると、受講登録時の選択肢が広がるメリットもあるので、ぜひ 1 年次に公共を登録してみてください。

3 注意事項

- ・「公共」2 単位を卒業までに履修しなければなりません。
- ・「公共」を履修しないと「政治・経済」「倫理」は登録できません。
- ・「公共」と「政治・経済」「倫理」を同年度に登録できません。

4 設置科目と登録条件

科目名	科目紹介	登録条件
公共	公共的な空間に生きる私たちに必要な、政治や経済、宗教や哲学について、基本的なことを幅広く学びます。	2 年次必履修科目 (※「政治・経済」「倫理」を 2 年次で 選択したい場合は 1 年次で登録可能)
政治・経済	政治制度の特徴やその成り立ち、経済理論や経済政策などをさらに深く学びます。	「公共」を履修していること。
倫理	青年期の思想や宗教、哲学などをさらに深く学びます。	

1 教科の特徴

数学は難しいとよく言われます。皆さんもそのように感じたことが多いことでしょう。数学には、数学的現象の世界を簡単な原理で表現する、例えば、今まで解決するために長時間要していた問題を、短時間に解決することがあります。簡単な例として、たし算しか知らない人に、2を345回たせ、と言えは答えを出すまでに相当な時間がかかることでしょう。しかし、かけ算を知っている者にとっては、あっという間に答えを得ることができます。数学の難しさとは、新しい考え方や方法を身につけ、使いこなせるようになるところにあります。

数学の学習を通して、今までの知識を確実に使えるようにし、困難な問題へも試行錯誤しながら果敢に挑み続ける姿勢を身につけてほしいと考えます。

2 受講のすすめ

数学科の上級科目の講座については登録条件があります。

下記の履修例を参考に、1年次から進路を考えて計画的に登録するようにしましょう。

【履修例】

- 理系大学への進学希望者：「数学Ⅰ」「数学A」→「数学Ⅱ」「数学B」「数学C」→「数学Ⅲ」
- 看護系への進学希望者：「数学Ⅰ」→「数学A」
- 受験では必要ない生徒：「数学Ⅰ」、「生活の中の数学」
- 数学が苦手な生徒：「数学Ⅰ」の登録時に「やさしい数楽」

3 注意事項

- ① 「やさしい数楽」は数学が苦手な生徒向けの科目、「**数学A**」は**1年次から登録できる上級科目**（ただし、「**数学A**」と**同年度に受講する「数学Ⅰ」**の習熟度講座は**通年で標準クラスとなる**）です。

「やさしい数楽」と「数学A」の同時登録は特別な事情がない限り控えてください。

- ② 「数学A」、「数学Ⅱ」、「数学B」、「数学Ⅲ」、「数学C」を登録希望する人は、必ず数学科に相談に来てください。
- ③ 「**数学Ⅰ(再)**」は**ありません。再登録希望者は、1年次生と一緒に「数学Ⅰ」を登録します。**

4 設置科目と登録条件

科目名	科目紹介	登録条件
数学Ⅰ	1年次生および再登録者（「数学Ⅰ」未履修、または未修得）を対象とする必履修科目	上記の注意事項①参照（「数学A」の登録者）
数学A	「数学Ⅰ」で扱わない内容を学習する。	特になし
数学Ⅱ	「数学Ⅰ」の次の段階を学習する。	「数学Ⅰ」の履修
数学B	「数学Ⅱ」を学びながら、または学び終えた段階による学習をする。	「数学Ⅱ」の履修、または、同年度登録
数学Ⅲ	「数学Ⅱ」の次の段階を学習する。	「数学Ⅱ」の履修
数学C	「数学Ⅱ」を学びながら、または学び終えた段階による学習をする。	「数学Ⅱ」の履修、または、同年度登録
やさしい数楽	数学Ⅰの基礎クラスの内容をやさしく学ぶ。	1年次限定
生活の中の数学	数学に親しむことができる題材を扱う。	2年次以上

受験する学校などによって必要な科目が異なりますので、十分考えて受講しましょう。進路に向けて受講科目に迷った時は、必ず数学科に相談してから受講しましょう。

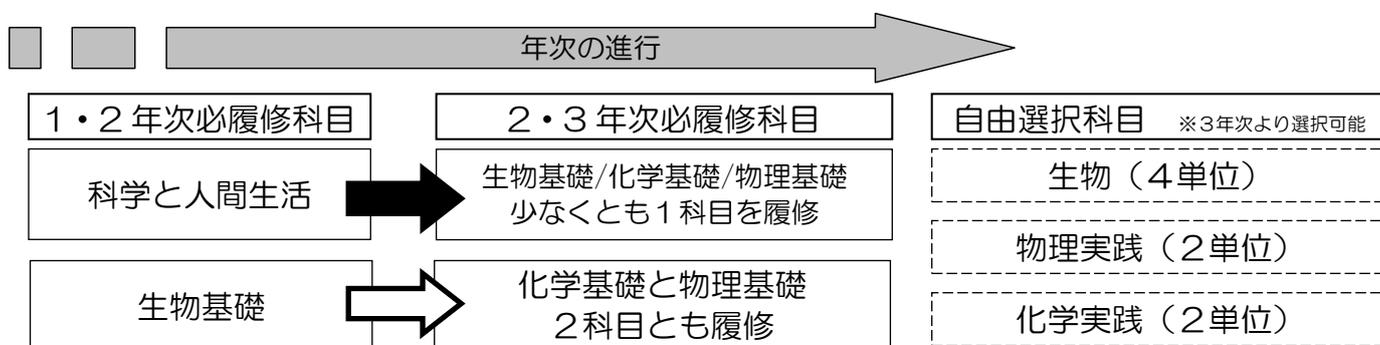
1 教科の特徴

いろいろな実験や観察を基に、身のまわりのことやその背景を深く、考えていきます。

2 受講のすすめ

最初に1～2年次で、「科学と人間生活」・「生物基礎」の必履修科目を履修します。

基本的には「科学と人間生活+基礎科目1つ」の受講をおすすめします。「科学と人間生活」は、化学・生物・物理・地学の4つの分野の幅広い内容を、やさしく学ぶ科目です。どの基礎科目を登録するか悩んでいる人は、まずは「科学と人間生活」を登録し、次年度の参考にするのがおすすめです。「生物基礎+化学基礎+物理基礎（基礎科目3つ）」の受講も可能です。論理的に考えることや分数・小数点を含む計算に自信がある人におすすめです。また、3年次以降に各自の興味や関心、進路などに合わせて、選択科目「生物」、「物理実践(旧 物理演習)」、「化学実践(旧 化学演習)」が登録できます（各科目登録条件あり）。下の図に、年次の進行に合わせた履修順序の例を示しました。参考にしてください。



3 注意事項

- ・「物理実践」と「化学実践」は「旧 物理演習」と「旧 化学演習」から名称変更した科目です。既に「物理演習」や「化学演習」を履修した生徒は、「物理実践」や「化学実践」を登録することはできません。注意してください。
- ・「生物」「物理実践」「化学実践」には、登録条件があります。よく確認してください。

4 設置科目と登録条件

科目名	科目の特性	科目の位置づけ（登録条件）
科学と人間生活 (科人)	4分野を広くやさしく学習します	上の図を参考にすること
生物基礎	グラフ・図などを読みとく力が必要	上の図を参考にすること
化学基礎	暗記と計算が両方重要	科人または生物基礎を既に履修した生徒
物理基礎	小数・分数を含む計算力が必要	科人または生物基礎を既に履修した生徒
生物	生物学のより高度な内容を学ぶ	3年次以上で「生物基礎」を既に修得した生徒
物理実践	物理基礎の内容の発展	3年次以上で「物理基礎」を既に修得した生徒
化学実践	化学基礎の内容の発展	3年次以上で「化学基礎」を既に修得した生徒

※注意※ 自由選択科目の受講を考えている生徒は、理科の教員に必ず相談すること。

1 教科の特徴

皆さん！健康ですか？スポーツでいい汗をかいていますか？でもね、皆さん、健康って、何でしょう？スポーツでいい汗をかかって、どういうことでしょうか？

「保健体育」の授業は、「保健」と「体育」から成り立っています。先ほどのような質問に答えていくために「保健」では、健康や安全に対する基礎的・基本的な内容を学習し、「体育」では生涯にわたってスポーツを楽しむために必要な知識と技術を学習します。そして、この2つの科目を学習することにより、生涯にわたって明るく豊かで活力のある生活を営む態度を育てていきます。そして、その結果皆さんには先ほどの疑問に答えを出してもらえらるることと思います。それが、「保健体育」の究極の課題です。

2 受講のすすめ

- 「保健体育」の必履修科目は、受講する年次が決まっています。
これは、継続的・計画的に行う必要があるためです。

3 注意事項

- 「保健Ⅰ」と「体育Ⅰ」は1年次の必履修科目です。
- 「保健Ⅱ」と「体育Ⅱ」は2年次の必履修科目です。
- 「体育Ⅲ」は3年次の必履修科目です。
- 「保健」はⅠ、Ⅱ、「体育」はⅠ、Ⅱ、Ⅲを必ず受講してください。

4 登録できる科目と登録条件

科目名	科目紹介	登録条件
体育Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	1年次では基礎体力をつけ、2年次以降では更なる運動技能の向上を目指して学習をします。	Ⅰは1年次、Ⅱは2年次、Ⅲは3年次で登録をします。
保健Ⅰ・Ⅱ	保健Ⅰでは『現代社会と健康』、保健Ⅱでは『生涯を通じる健康』を学びます。	Ⅰは1年次、Ⅱは2年次で登録します。
ダンス	初心者でもOK。身体の使い方や動き方、作品の創作方法を学びます。	<ul style="list-style-type: none"> • 1年次から登録可能です。 • 受講登録説明会に出席すること。もしくは、登録前に保健体育科の教員と面談をすること。
ニュースポーツ	近代において日本に紹介されたスポーツや日本で新しく開発されたスポーツを学びます。	
スポーツ科学	「運動の合理的な実践」と「健康の増進と体力の向上」に活用することのできる資質や能力を向上させます。	

※保健Ⅰ、保健Ⅱは必履修科目のため、再履修講座が設けられています。詳しくは保健体育科教員まで。

1 教科の特徴

音楽の授業では、声楽、器楽、鑑賞の活動を行う中で、楽曲の構成や歴史・文化との関わり等へと視野を広げ、音楽を多面的に捉える力を養います。より深く音楽を感受できるよう、知識を深め、技術を磨き、自分自身の表現を探究していきます。

2 受講のすすめ

- <音楽Ⅰ> 音楽全般（歌唱、器楽、鑑賞）に興味のある人向けの授業です。
- <歌唱> 歌うこと（クラシックが中心）が好きな人向けの授業です。
- <音楽演習> 楽譜を読むようにするための授業です。
進路に保育を希望している人には履修を勧めます。
- <音楽Ⅱ> 音楽Ⅰと同じように音楽全般を取り扱います。

3 注意事項

- ◆「音楽Ⅰ」・「美術Ⅰ」・「工芸Ⅰ」・「書道Ⅰ」（必履修科目）の中から、卒業までに必ず 1 つ履修してください。（「美術Ⅰ」・「工芸Ⅰ」・「書道Ⅰ」の説明は前ページを参照）
- ◆<歌唱> では J-POP やはやりの曲は扱いません。
- ◆<音楽演習> は「継続して取り組むこと」が必要です。学習内容をよく把握し、自分自身の適性をしっかり考えた上で選択してください。

4 設置科目と登録条件

科目名	科目紹介	登録条件
音楽Ⅰ	教科書を用いて、歌唱やギター演奏を中心に鑑賞等も含め、幅広く学びます。	1 年次必履修科目
歌唱	歌曲、オペラ楽曲等、様々な楽曲を扱います。1 人ずつ歌うこともあります。	1 年次～4 年次で選択可能
音楽Ⅱ	<音楽Ⅰ> の発展的な内容として、幅広く学びます。器楽では、三味線とクラシックギターの演奏に取り組みます。	<音楽Ⅰ> を履修していること
音楽演習	基礎的な音楽理論の学習をします。また、キーボードを使った実技も行います。	1 年次～4 年次で選択可能

※4 年次の受講上の注意点

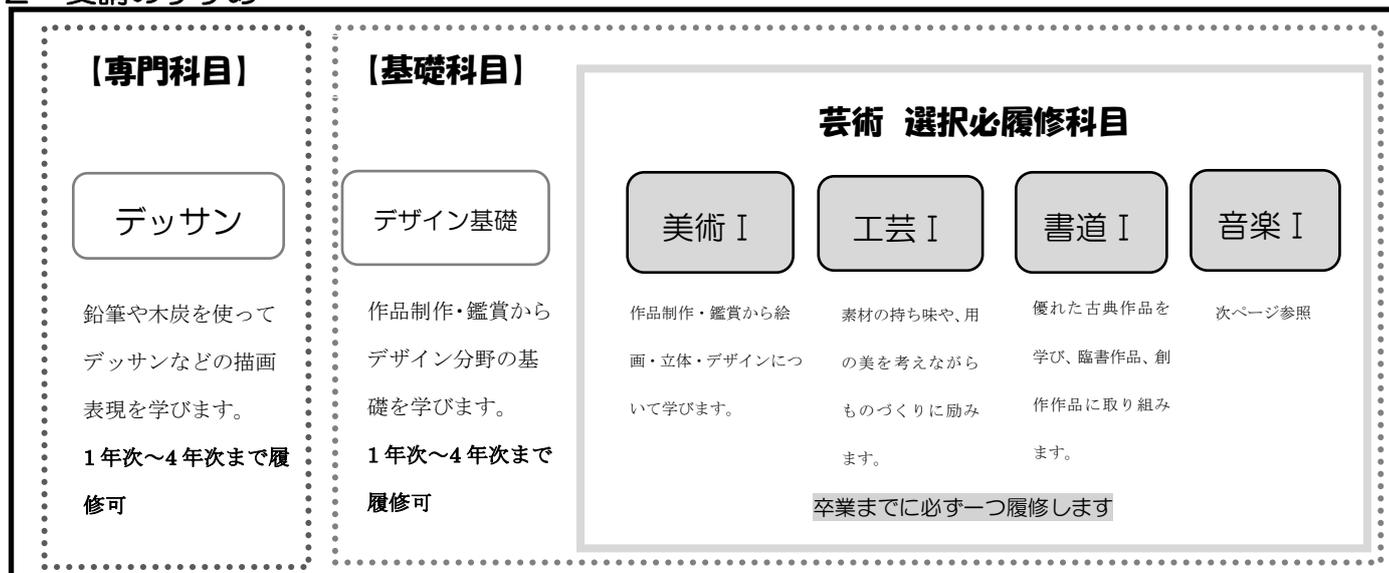
- ・「歌唱」は、過去に「声楽」を修得した人は登録できない。
- ・「音楽演習」は、過去に「ソルフェージュ」を修得した人は登録できない。

1 教科の特徴

表現力を高め、コミュニケーション能力を伸ばし、自分の感性を磨く教科です。他校と比べ多くの講座があります。

実技科目です。出席をして、授業中に作品制作をしっかりと行うことが必要です。

2 受講のすすめ



・・・選択必修科目



・・・選択科目

3 注意事項

「音楽Ⅰ」・「美術Ⅰ」・「工芸Ⅰ」・「書道Ⅰ」（必修科目）の中から、卒業までに必ず1つ履修してください。（音楽Ⅰの説明は次ページ参照）

費用が多くかかるものもあります。受講を希望する前に講座の教材費、準備品などを確認してください。

4 設置科目と登録条件

※2年次以降に登録できる科目

科目名	科目紹介	登録条件
美術Ⅱ	美術Ⅰの発展科目です。表現力や技術の向上を目指します。	美術Ⅰの履修が必要
工芸Ⅱ	工芸Ⅰの発展科目です。習作や演習を重ね実際の制作を行います。	工芸Ⅰの履修が必要
発展デザイン	「デザイン基礎」よりもさらに専門的にデザインを学んでいきます。	なし（ただし、デザイン基礎を履修してからの受講をお勧めします。）
陶芸	陶土を使って制作し、手作りの良さや使う楽しさを学びます。	なし
彫金	金属を素材とした工芸作品の制作を通して金属加工について学びます。	なし
写真	カメラを使った撮影の基礎基本、表現について学びます。	なし
メディア表現	写真を使用したアニメーション制作や写真の表現について学びます。	なし

1 教科の特徴

外国語の学習は、新しい楽器の演奏を修得するようなものです。最初は基本的な音を出すことも難しいのですが、練習を重ねることで徐々に複雑なメロディを演奏できるようになります。同じように、簡単なフレーズや単語から始まり、繰り返し練習することで、会話や文章がスムーズにできるようになるのです。

2 受講のすすめ

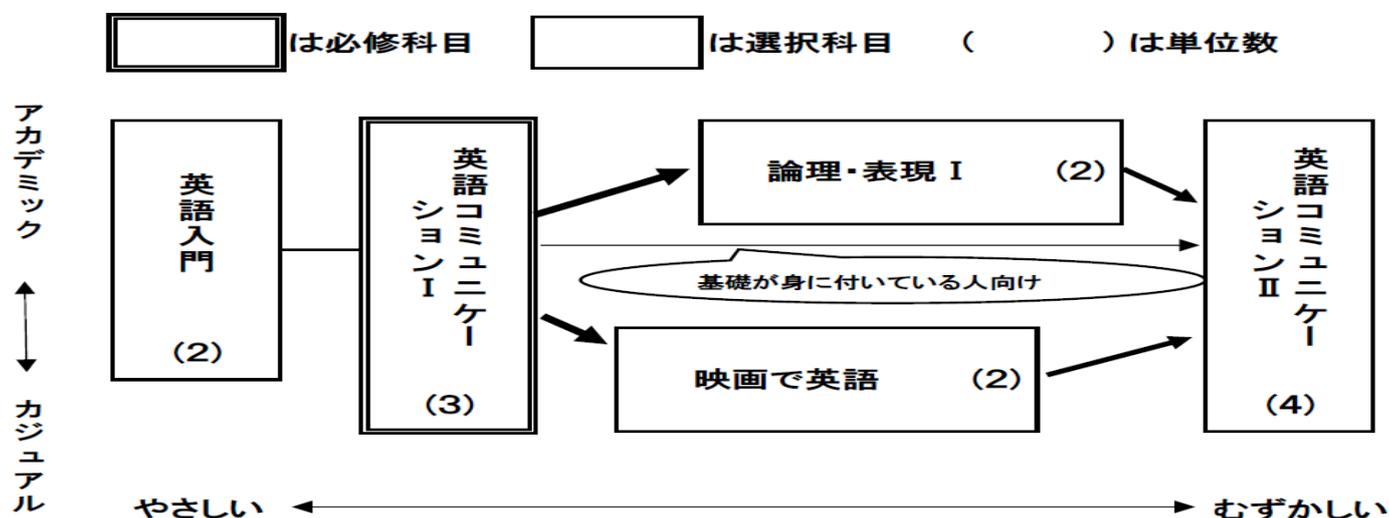
講座によって難易度に差があります。下の概略図を参考にして、自分に合った無理のない取り方をしてください。「英語コミュニケーションⅠ」の履修者は「論理・表現Ⅰ」を履修した後に「英語コミュニケーションⅡ」を受講すると無理なく学修が進められます。

3 注意事項

授業では発言が求められる場面や、ペアまたはグループで活動を行う場合があります。先生やクラスメイトと積極的にコミュニケーションを取ろうとする態度で臨んでください。

4 設置科目と登録条件

英語科科目概略図



注意：英語コミュニケーションⅠ・Ⅱはコミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱの代替科目

科目名	科目紹介	登録条件
英語コミュニケーションⅠ	英語の「聞く」「読む」「話す」「書く」のすべての分野で、基礎的な能力を身につけることをめざします。	1年次必履修科目
英語入門	英文法の基礎的な能力を養うことを目標としています。	1年次限定
論理・表現Ⅰ	高校英語に必要な文法事項の学習、さらに英語会話の基礎的な能力を養うことを目標としています。授業内で発言する場面やペア・グループでの活動、宿題等もあります。	必履修科目「英語コミュニケーションⅠ」を履修していることが望ましい。2,3年次生と4年次は新カリキュラム履修者
英語コミュニケーションⅡ	英語の総合的な力をさらに深めることをめざします。 大学受験希望者を対象としています。 授業内で発言する場面やペア・グループでの活動、宿題等もあります。	必履修科目「英語コミュニケーションⅠ」または「コミュニケーション英語Ⅰ」を履修していること。2年次以上限定
映画で英語	映画をもとに、 <u>リスニングの力と文法・語法の知識等を強化する科目です。</u> 映画を観るだけで単位がもらえる科目ではありません。	必履修科目「英語コミュニケーションⅠ」または「コミュニケーション英語Ⅰ」を履修していることが望ましい。2年次以上限定

1 教科の特徴

私たちがより豊かに生きるために必要な知識や技術を、授業を通して考えながら学び、身につけていく教科です。学習内容は科目によって、身近な衣食住に関する内容から地球環境や障がいに関する内容まで多岐にわたります。理論だけでなく、実験・実習・調査・演習・実技など総合的に学習していきます。

社会福祉の科目「社会福祉」「手話」「点字」は特別専門講師の先生による授業です。自分と違う価値観に触れ、現実の社会を知り、誰もが幸せに生きることについて考える科目です。

2 受講のすすめ

必履修科目「家庭基礎」は、2年次で履修します。

選択科目は2年次以降に受講することができます。各自の興味や関心、進路などに合わせて決めてください。

*家庭科では、以下の検定を校内で行っています。

- 全国高等学校家庭科技術検定（食物） 対応科目「食物」
- 全国高等学校家庭科技術検定（被服） 対応科目「被服」

3 注意事項

- 材料費や道具の準備が必要な講座が多くあります。
- 少人数でのグループ実習を多く行う科目もあります。協力して取り組みましょう。
- 被服と手芸は授業内で作品を仕上げるのが基本です。持ち帰っての作業はできません。

4 設置科目と登録条件

* 2年次以降に登録できる科目

科目名	科目紹介
家庭基礎	【必履修科目】食物・被服・住生活・保育・消費者・家族・高齢者の7分野について学習します。
手芸	洋裁の基礎、材料の取り扱い、各種手芸の技法を学習します。
被服	ミシンの使い方を覚え、洋裁の基礎と、和裁の基礎を学習します。甚平を完成させます。
食物	実習や調べ学習を通して、調理操作や食品の特性、食文化について学習します。 <u>R7年度までに「食物Ⅰ」「食物Ⅱ」両方を修得している人は登録できません。</u>
保育	実習等を通して乳幼児の発達や保育に関する知識と技術について学習します。
住生活	日本や世界の住文化、インテリア、快適な住まいについて学習します。座学だけでなく、モビール作成等の実習も行います。
手話	実技を中心に指文字や手話の学習をします。手話は読み取りと表現があり、「口話」が重要になってきます。「口話」はマスクを外して表現します。
点字	視覚障がい者を取り巻く状況について理解を深めると共に、点字の読み書きに関するルールや仕組みについて実践をとおして学習します。
社会福祉	障がい者、高齢者等について、基本的な知識と基礎的な介護技術を学習します。

1 教科の特徴

これからの時代、生活の中で欠くことのできない情報通信技術（ICT）の「基礎的な知識」を学びます。

情報科は、「情報Ⅰ」と「情報の基礎」の2科目です。情報Ⅰは、必履修科目で全員が学びます。情報の基礎は、社会人として必要な ICT 機器の操作の基礎の基礎を学ぶ科目です。

2 受講のすすめ

○必履修科目 「情報Ⅰ」について

必履修科目であるため、全員が必ず受講することになります。授業は、座学と実習を交えながら進めます。

○選択科目「情報の基礎」について

社会人として必要な ICT 機器の操作を学びます。ローマ字入力が出来ない等、コンピュータに苦手意識を持っている人でも、是非、選択してください。毎時間、タイピング演習を行います。「継続は力なり」です。頑張りましょう。

- コンピュータを使用した実習が中心の科目です。
- ローマ字入力の練習を行います。
- タイピング練習を通年で行います。
- 文書作成、表計算、プレゼンテーションといった各アプリケーションの具体的な操作方法は、学習指導要領上、情報Ⅰでは扱われません。そのため、これらは「情報の基礎」で、基礎的な学習から取り組みます。
- 同じ課題を反復練習しながら技術の上達を目指します。

3 注意事項

「情報の基礎」について

- 社会人として必要な ICT 機器の操作の基礎の基礎を学びます。そのため、初歩的な練習を繰り返し行います。

「評価」について（2科目共通）

- 実習を伴う教科である為、日々の出席状況、成果物、单元テスト、ノート等提出状況、授業の取り組み、单元毎の確認テストなど、総合的に評価します。

4 設置科目と登録条件

科目名	科目紹介	登録条件
情報Ⅰ	【必履修科目】 コミュニケーション、デザイン、プログラミング、情報通信等、基礎的な内容を学習します。	1年次必履修科目
情報Ⅰ(再)	同上	2年次以上、再登録科目
情報の基礎	コンピュータの操作を学ぶ	コンピュータ操作の基本を学ぶ

1 教科の特徴

工業科は、6講座設置しています。前身の烏山工業高校の設備・施設を引き継いでいるので、中学校での技術家庭とは違い、**本格的な機械、電気・電子、情報**について学ぶことができます。授業は、実技（実習）を中心としています。

2 受講のすすめ

工業科の科目は、科目名から内容をイメージしにくいと思いますので、迷ったら、工業科の先生に相談してください。

工業実習は、表に記載している内容について、期間を定めてローテーション（2班もしくは3班）して学習します。また、受講にあたり、注意事項がありますので、よく確認しましょう。

3 注意事項

- ・各工業実習の内容で、自分の好きな分野だけを学ぶ、という選択はできません。
- ・工業科の授業は、実技（実習）が中心です。欠席が多いと授業、作業工程が遅れ、知識も技術も身に付きません。また、**危険**を伴うので、いい加減な事はできません。
- ・工業実習の登録者は、実習服や実習帽（気持ちを引締め、事故防止）が必要になり、各自で購入をお願いしています。ただし、**不適合な作業着**での参加は認められません。受講説明会にてサンプルを確認して下さい。心配な場合は、購入する前に必ず相談してください。
- ・履修条件はありませんが、**ものづくりが好き**という気持ちはもってください。

4 設置科目と登録条件

科目名	科目紹介			登録条件
	機械系	電気・電子系	情報系	
工業実習A	自動車・木工	回路		なし
工業実習B	フライス盤・溶接		アプリ	なし
工業実習C	板金・旋盤 ・製図（手書き or CAD）			なし
工業実習D	フライス・旋盤 ・製図（手書き or CAD）			なし
CG	3D コンピュータグラフィックソフトウェアの操作方法および作品制作等			コンピュータの操作に関する基本的な知識・技術（日常的な使用程度）を有していること。
計算・ワープロ実習	表計算処理ソフトによる計算 文章処理ソフトによる文書作成			なし

～実習内容並びに用語解説～

- フライス盤：工作機械で刃物を回転させ、素材（金属）を削る
- 溶接：ガスやアークで金属を溶かして接合する
- 板金：金属を折り曲げたり、形を整える
- 旋盤：工作機械で回転する素材（金属）を削る
- 自動車：車の整備点検やエンジンのしくみ
- 製図：図面を「読む」「描く」

人間と社会・総合・総合的な探究の時間

必履修科目3科目 必登録科目2科目

1 教科の特徴

さまざまな教科で多くの学習を積み重ねていく中、各教科を横断的・総合的な学習を行い、探究の見方や考え方を働かせ、皆さん自身のあり方や生き方を考えていく教科です。

友だちと共に調べたり考えたりして、自分の興味の幅を、さらに広げていきましょう。

2 受講のすすめ

人間と社会・探究基礎・課題研究が「必履修科目」、産業社会と人間・生活実践が「必登録科目」ですので、受講登録の際は忘れずに登録しましょう。また、登録できる年次の指定もあります。下の表を参照してください。

1年次	産業社会と人間		
2年次	人間と社会	生活実践	探究基礎
3年次	課題研究		
4年次			

3 注意事項

「人間と社会」と「生活実践」は半期受講です。クラスごとに前期と後期に分かれます。

4 設置科目と登録条件

科目名	科目紹介	登録条件
産業社会と人間	自分の生き方や仕事・職業・進路・社会とのかかわりなどを考え、学びます。数少ないクラス単位の授業です。コミュニケーション能力を鍛えましょう。	<u>1年次の必登録科目</u>
人間と社会	道徳性を養い、判断基準（価値観）を高めることで、社会的現実を照らし、よりよい生き方を主体的に選択し行動する力を身に付けることを目標とします。	<u>2年次の必履修科目</u> 1 単位科目で半期受講です。「生活実践」と併せて1年間学習します。
生活実践	日常生活における一般常識や、社会人としての基本的マナーについて、実習や演習を通して知識や技術を身に付ける科目です。	<u>2年次の必登録科目</u> 1 単位科目で半期受講です。「人間と社会」と併せて1年間学習します。
探究基礎	3年次の課題研究へ向けての基礎的な科目で、自ら課題を見つけ、データを集め、考察した経過を資料にし、発表する科目です。調査方法や、自分でデータを収集する方法、資料の作り方、発表の仕方などを学んだ後、自由にテーマを設定して調査・研究を行い、発表を行います。	<u>2年次の必履修科目</u>
課題研究	系列を基にした5分野（生活班、保育福祉班、美術工芸班、音楽班、ものづくり班 [※] ）に分かれ、研究活動を行う予定です。自らの研究テーマを掘り下げ、一年間活動し、研究成果を発表します。何回も考え直して、より良い研究に仕上げていく探究の学習があります。 <u>※ものづくり班の中で、主に電気・情報と機械の専門に分かれます。</u>	<u>3年次必履修科目</u> 「探究基礎」の履修（または同年度登録）で登録可能。4年次以上の再登録者も登録すること。

1年次 必履修科目

【注意事項】

- 科目名に【選択必履修】が付いている科目は「1年次での受講」か「2年次での受講」を選択することができる。理科の履修順序はP7の「理科の教科紹介」を参照。
- 科目名に▲が付いている科目は「単独の再履修講座」が設置されているため、再履修者は受講登録の際に、自由選択科目「〇〇_再」の講座を選択すること。
- 科目名に＊が付いている美術Ⅰ、工芸Ⅰ、書道Ⅰ、音楽Ⅰはいずれか1つを履修することで卒業条件を満たす。
- 科目名に■が付いている科目はカリキュラム改定に伴う留意事項があるため新6年次の生徒で該当科目が未履修の者は選択すること。

■【選択必修】公共		単位数	2	定員	30	教材費	なし
公民	学 習 内 容	「公共」は時事問題に触れながら、多様な他者と広くつながる公共的空間である現代社会の特徴や課題について学んでいく科目です。 学習項目としては【倫理分野】、【政治分野】、【経済分野】、【国際分野】、【現代の諸課題分野】など、幅広く様々な内容を扱います。 私たちがこれからの時代を生き抜いていくために、社会の中で生きる力となる知識や論理的思考力を身につける科目です。					
	条 件	1・2・3年次対象。原則2年次で登録する必修科目。「現代社会」が未履修の4年次も登録可能。					
	留 意 事 項	「公共」を履修しないと次年度以降に「政治・経済」「倫理」を登録できない。					
	必 要 な も の	教科書					
	評 価 ・ 評 定 の 方 法	単元ごとの考査、授業への取り組み、提出物などを総合的に判断する。					
	観 点 別 の 評 価	【知識・技能】現代の諸課題をとらえ考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解し、身近な集団生活の中で活用することができる。 【思考・判断・表現】現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や基本的原理を活用し、合意形成や社会参画を視野に考察したことを表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。					
数学Ⅰ		単位数	3	定員	20	教材費	なし
数学	学 習 内 容	教科書を参考にして、学習を行う。 (1) 数と式 (2) 2次関数 (3) 図形と計量 (4) 集合と命題 (5) データの分析 * 初回授業時にクラス分けテストを実施し、習熟度別3クラスに分ける。来年度「数学B」「数学C」、今年度「数学A」を登録する生徒は標準クラスで授業を行う。適宜、中学校の内容も確認しながら進める。 * 一斉テストを実施する。					
	条 件	1年次生および2年次生以上の再登録者（「数学Ⅰ」未履修、または未修得）を対象とする。来年度「数学B」「数学C」、今年度「数学A」を受講する生徒は通年で標準クラスに所属する。					
	留 意 事 項	この「数学Ⅰ」の履修が、「数学Ⅱ」の登録条件となる。					
	必 要 な も の	ノート、タブレット					
	評 価 ・ 評 定 の 方 法	ノートや振り返りシートの記述内容・課題の取り組み状況・小テスト・単元テスト					
	観 点 別 の 評 価	【知識・技能】 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 【思考・判断・表現】 数学を活用して事象を論理的に考察し、数学的な表現を用いて事象を表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている。					
【選択必修】科学と人間生活		単位数	2	定員	24	教材費	なし
理科	学 習 内 容	①物質の科学 ②生命の科学 ③光や熱の科学 ④宇宙や地球の科学 上記の内容について、講義・実験・観察等を通じて科学が人間生活にどのように関わっているかや科学の基本的な概念や原理・原則、技能を学び、日常生活や社会との関連を図りながら科学的に探究することを目指す。					
	条 件						
	留 意 事 項	「科学と人間生活」を履修した場合、「生物基礎」「化学基礎」「物理基礎」いずれかの履修が必要となる。					
	必 要 な も の	教科書、問題集、タブレット。そのほか教員が指示したもの。					
	評 価 ・ 評 定 の 方 法	出席状況、振り返りテスト、提出物、授業態度、授業の振り返り等を総合して評価する。					
	観 点 別 の 評 価	【知識・技能】自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活に関連した観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて科学的に探究している。 【主体的に学習に取り組む態度】自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとしている。					

【選択必修】生物基礎		単位数	2	定員	24	教材費	なし
理科	学 習 内 容	①生物の特徴 ②遺伝子とのはたらき ③ヒトの体の調節 ④生物の多様性と生態系 上記の内容について、講義・実験・観察等を通じて生物学の基本的な概念や原理・原則、技能を学び、日常生活や社会との関連を図りながら科学的に探究することを目指す。					
	条 件						
	留 意 事 項	3年次以上で「生物」を登録したい場合は、1・2年次で修得しておく必要有。					
	必 要 な も の	教科書、問題集、タブレット。そのほか教員が指示したもの。					
	評価・評定の方法	出席状況、考査、提出物、授業態度、授業の振り返り等を総合して評価する。					
	観 点 別 の 評 価	【知識・技能】 生物や生命現象についての基本的な概念や原理・原則などを理解している。また、観察・実験などに関する基本的な技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 課題の発見や観察・実験などを通して、生物や生命現象について考察し、表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 生物や生命現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。					
体育Ⅰ		単位数	2	定員	30	教材費	なし
保健体育	学 習 内 容	「体育Ⅰ」は、高等学校で学ぶ初めての体育となるので、以下の視点で授業を展開していきます。 1) 様々な運動種目に触れ、基本技術を学び、各運動種目の持つ楽しさや面白さを味わっていくこと。 2) 自らの体力を高めたり、心身の状態を良好に保てたりできるような運動との関わり方や方法を学ぶこと。 3) 継続的に運動を楽しんでいくために、公正・協力・責任の態度を育てること。 ・球技、個人種目等の様々な種目を、1年間を通じてバランス良く学びます。 ・夏季の一定期間は水泳と陸上競技の種目選択、冬季の一定期間は持久走及び縄跳びをそれぞれ学習します。 ・授業で体力テストを実施します。					
	条 件	1年次対象必修科目 2～4年次の再登録者も登録すること。※再登録者も基本自部での登録					
	留 意 事 項	なし					
	必 要 な も の	体育着上下・Tシャツ・体育館シューズ（原則本校指定）、ハーフパンツ、グラウンド用シューズ。 夏季種目で水泳選択者は、競泳用の水着（スパッツタイプ可）・水泳帽・ゴーグル（任意）					
	評価・評定の方法	実技テスト、学習カード、授業観察などで評価					
	観 点 別 の 評 価	【知識・技能】運動の合理的、計画的な実践を通して、各種の運動特性に応じた知識・技能及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身につけている。 【思考・判断・表現】生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題や運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 【主体的に学習に取り組む態度】授業に積極的に参加し、運動における競争や協働の経験を通して、公正、協力、責任、参画、共生などを理解し意欲的に取り組むとともに、運動に親しみ健康の保持増進と体力の向上目指し取り組んでいる。					
▲保健Ⅰ		単位数	1	定員	30	教材費	なし
保健体育	学 習 内 容	個人及び社会生活における健康・安全についての理解を深めるとともに、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していくための力を身につけます。 【「保健Ⅰ」での学習内容】 現代社会と健康 ア) 健康の考え方と成り立ち イ) 私たちの健康のすがた ウ) 生活習慣病の予防と回復 エ) がんの原因、予防、治療、回復 オ) 食事・運動・休養・睡眠と健康 カ) 喫煙・飲酒・薬物乱用と健康 キ) 精神疾患の特徴、予防、回復 ク) 健康に関する意思決定、行動選択、環境づくり など *上記の内容によっては実験や実習、課題学習を行います。					
	条 件	1年次対象必修科目					
	留 意 事 項	なし					
	必 要 な も の	教科書、学習ノート、端末					
	評価・評定の方法	学力テスト、学習カード、授業観察などで評価					
	観 点 別 の 評 価	【知識・技能】健康に対して、各課題の原因や成り立ち、予防策や改善方法、個人と社会との関連などを理解している。また、理解したことを言ったり書いたりしている。 【思考・判断・表現】自他や社会の課題を発見し、分析比較するなどし、予防策を考えている。自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由など筋道を立てて説明している。 【主体的に学習に取り組む態度】授業に積極的に参加し各課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。					

*音楽Ⅰ		単位数	2	定員	23	教材費	なし
学 習 内 容	音楽の幅広い活動を通して、音楽的感性を養うことを目的とします。次のような内容を中心に学習します。 【表現】・歌唱…発声の基本を身につけます。独唱及び合唱では、外国語の作品も幅広く取り上げます。 ・器楽…ギターの奏法を学習し、単旋律を演奏できるようにします。 【鑑賞】音源及び映像の鑑賞を通し、幅広い音楽観を身につけます。 【その他】西洋と日本の音楽史を学び、音楽の発展について理解を深めます。楽譜を読む力を身に付けられるよう、音符の種類やリズムなど基礎的な知識を学びます。						
条 件	「音楽Ⅰ」の履修が「音楽Ⅱ」を登録する条件。						
留 意 事 項	2年次以上の枠は3名						
必 要 な も の	教科書						
評価・評定の方法	実技テスト、振り返りテスト、授業に向かう姿勢・態度の観察、プリント課題、出席の状況等						
観 点 別 の 評 価	【知識・技能】曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。						
	【思考・判断・表現】音楽を形作っている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感じたこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながら良さや美しさを自ら味わって聴いたりしている。						
	【主体的に学習に取り組む態度】主体的・協動的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。						
*書道Ⅰ		単位数	2	定員	20	教材費	¥3,000
学 習 内 容	用具の手入れ方法等、基礎基本から学びます。 優れた古典作品の歴史的背景を学び、そうした作品を手本に臨書作品、創作作品に取り組みます。						
条 件	なし						
留 意 事 項	汚れても良い服。筆・墨液・紙は教材費で購入します。						
必 要 な も の	教科書						
評価・評定の方法	作品・ワークシート・授業観察・小テスト						
観 点 別 の 評 価	【知識・技能】優れた古典作品に触れ、その制作の背景を学び、書体や作品の特長的筆法を理解し、臨書作品の制作に生かせる。						
	【思考・判断・表現】紙のサイズに合った線の太さや字の大きさを理解し、バランスの取れた作品に仕上げることができる。書の良さ、美しさを感じ、意図に基づいた構想を表現できる。						
	【主体的に学習に取り組む態度】主体的に書の幅広い活動に取り組み、書の伝統文化を感じ、日常における調和のとれた手書き文字を表現できる。						
▲*美術Ⅰ		単位数	2	定員	20	教材費	¥3,500
学 習 内 容	美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指します。次の内容を中心に学習します。 【表現】 絵画・彫刻…水彩画、水墨画、粘土造形 デザイン…色見本づくり、コラージュ等 【鑑賞】 生徒作品の発表・鑑賞、アーティスト・美術家等のDVD鑑賞						
条 件	「美術Ⅰ」の履修が「美術Ⅱ」を登録する条件です。						
留 意 事 項	なし						
必 要 な も の	教科書						
評価・評定の方法	授業中の取り組み状況・作品・出席状況を下の三観点で評価する。						
観 点 別 の 評 価	【知識・技能】造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解している。						
	【思考・判断・表現】表現形式の特性を生かし、形体や色彩、構成などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。						
	【主体的に学習に取り組む態度】主体的に美術の幅広い創造活動に取り組もうとしている。						

芸術	▲*工芸Ⅰ	単位数	2	定員	20	教材費	¥3,500
	学 習 内 容	<p>工芸の幅広い創作活動を通して、造形的な見方考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の工芸や工芸の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指します。</p> <p>【令和7年度の学習内容例】 木彫のバターナイフ、籐籠編み、ろうけつ染め等</p>					
	条 件	「工芸Ⅰ」の履修が「工芸Ⅱ」を登録する条件です。					
	留 意 事 項	刃物を用います。やすりがけや電動のこぎりで高い音が発生します。					
	必 要 な も の	教科書					
	評価・評定の方法	作品、小テスト、授業に向かう姿勢・態度の観察、プリント課題、出席の状況等					
	観 点 別 の 評 価	<p>【知識・技能】素材について理解し、制作物を捉える造形的な視点について理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、工芸の働きなどについて考えている。工芸や工芸の伝統と文化に対する見方や感じ方を深めている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】工芸や工芸の伝統と文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創作活動に取り組もうとしている。</p>					
外国語（英語）	■英語コミュニケーションⅠ	単位数	3	定員	20	教材費	なし
	学 習 内 容	<ul style="list-style-type: none"> 英語の「聞く」「読む」「話す」「書く」のすべての分野で、基礎的な能力を身につけることをめざします。 積極的にコミュニケーションをとろうとする姿勢を育成し、苦手意識を克服して英語で簡単な会話ができるようになることをめざします。 外国人指導員による授業も年間に何週か予定しています。 初回授業時にクラス分けテストを実施し、2クラス3展開の習熟度別授業を行います。 					
	条 件	必修科目、1・2・3・4年次対象					
	留 意 事 項	この科目の履修が、「英語コミュニケーションⅡ」の登録条件となります。（旧課程「コミュニケーション英語Ⅰ」の代替科目です。）					
	必 要 な も の	教科書、ワークブック、辞書、ノート					
	評価・評定の方法	各課ごとのふりかえりテスト、スピーキングテスト、授業への取り組み、小テスト、提出物などを総合的に判断する。					
	観 点 別 の 評 価	<p>【知識・技能】多くの支援を活用すれば、英語の文章を読解することができ、基礎的な文法事項を理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】積極的に授業に参加し、主体的に学ぼうとしている。</p>					
情報	▲情報Ⅰ（情Ⅰ）	単位数	2	定員	15	教材費	なし
	学 習 内 容	<p>コンピュータの基本的な学習を行います。座学を中心に、実習を交えながら学習します。</p> <p>第1章 情報社会とわたしたち 第2章 コミュニケーションと情報デザイン 第3章 コンピュータとプログラミング 第4章 情報通信ネットワークとデータの活用</p>					
	条 件	2年次以上は、再登録講座を登録する。					
	留 意 事 項	1クラスを2講座に分けた授業で設定する。					
	必 要 な も の	教科書・副教材					
	評価・評定の方法	毎授業で振り返りテスト・授業内成果物・ノート提出・単元テストなど、総合的に評価					
	観 点 別 の 評 価	<p>【知識・技能】コンピュータやデータの活用について理解し、技能を身につけ理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いて考察し、表現できる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。</p>					

		産業社会と人間（必登録）	単位数	2	定員	30	教材費	なし
総合・総合的な探究の時間	学 習 内 容	自分の生き方や仕事・職業・進路・社会とのかかわりなどを考え、学びます。また、数少ないクラス単位の授業です。クラスメイトのことを知り、人間関係を深めましょう。 〈学習内容〉①多くの人たちとの出会いを通じて、人間としてのあり方・生き方を学ぶ。②現在の社会の状況や変化を学び、進路選択の手がかりをつかむ。③社会の中で、自分をどのように生かし生きるかを考える。 講義のほかに、ものづくりなどの体験活動、様々な職業の方の講演会もあります。						
	条 件	1年次で登録する必登録科目						
	留 意 事 項	2年次以上の未履修者で再登録を希望する場合は、社会科・工業科の教員に相談をしてください。						
	必 要 な も の	なし						
	評 価 ・ 評 定 の 方 法	課題への取り組み、学習意欲、グループワークへの参加、ワークシートの提出						
	観 点 別 の 評 価	【知識・技能】与えられた課題に組み、授業・講演・映像の内容から必要な情報を読み取ることが出来ている。						
		【思考・判断・表現】授業・講演・映像の内容をもとに、課題について考察し、表現できている。						
【主体的に学習に取り組む態度】授業やグループワークに主体的に参加し、意欲的に取り組んでいる。								

2年次 必履修科目

【注意事項】

- 科目名に【選択必履修】が付いている科目は受講する年次を選択することができる。理科の履修順序はP7の「理科の教科紹介」を参照。
- 科目名に▲が付いている科目は「単独の再履修講座」が設置されているため、再履修者は受講登録の際に、自由選択科目「〇〇_再」の講座を選択すること。
- 科目名に■が付いている科目はカリキュラム改定に伴う留意事項があるため、新6年次の生徒で該当科目が未履修の者は選択すること。

		■言語文化	単位数	2	定員	15	教材費	なし
国語	学 習 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 古典（古文・漢文）の文章で、日本の伝統的な言語や文化を学習します。 ・ 小説の文章で、心情把握や状況把握などを学習します。 ・ 漢字や語句、文法なども学んでいきます。 ・ 伝統的な文章を的確に理解するとともに、現代の日本語の理解を深めることを目指します。（年度当初のテストにより、習熟度別クラスを編成します。） 						
	条 件	2年次に登録する必修修科目。						
	留 意 事 項	「現代の国語」どの同時履修は可能です。5年次以降の生徒で「国語総合」が未履修の場合は、この科目と「現代の国語」を履修することで卒業要件を満たすこととなります。また「国語総合」を履修している場合は、この科目を履修できません。						
	必 要 な も の	ノート・筆記用具等						
	評 価 ・ 評 定 の 方 法	単元ごとの振り返りテスト、授業への取り組み、漢字テスト、提出物などを総合的に判断する。						
	観 点 別 の 評 価	<p>【知識・技能】 古典の語句や文法、語彙力・文章の表記の仕方等を身につけている。</p> <p>【思考・判断・表現】 目的に応じて、語句や文法を適切に判断する方法、言語情報の整理の仕方等を理解している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 積極的に授業に参加し、主体的に学ぼうとしている。</p>						
		■【選択必修修】歴史総合	単位数	2	定員	30	教材費	なし
地理歴史	学 習 内 容	<p>近現代（現在の国家や社会の枠組みが形成され始める19世紀前後）の世界と日本の歴史を学びます。世界の歴史の中での日本の関わり方や、世界の歴史の動きが日本の歴史にどのような影響を及ぼしたのか、世界と日本の歴史の展開が現在の私たちにどのようにつながっているのか、などの観点から知識を身につけ、考察活動を通じて多様な見方・考え方を身につけていきます。</p> <p>講義・板書のほか、資料の読み取り活動や調べ学習なども行います。</p>						
	条 件	原則2年次で登録する必修修科目。						
	留 意 事 項	この「歴史総合」を履修しないと次年度以降に「世界史探究」「日本史探究」を登録できない。6年次生で「日本史A」「世界史A」が未履修の者は、この科目を履修することで卒業要件を満たすこととなる。						
	必 要 な も の	教科書等						
	評 価 ・ 評 定 の 方 法	単元ごとのテスト、授業への取り組み、課題や提出物などを総合的に判断します。						
	観 点 別 の 評 価	<p>【知識・技能】 歴史的事象に関する概念・出来事・人名などの知識を身につけて、地図や年表、史料などの読み解きを行うことができる。</p> <p>【思考・判断・表現】 歴史の見方・考え方を働かせ、資料等を活用しながら、現代社会の諸課題の解決を視野に入れた多面的・多角的な考察や表現ができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 歴史的事象について関心をもち、意欲的に学ぶことができる。考察活動等において主体的にとりくむことができる。</p>						
		■【選択必修修】公共	単位数	2	定員	30	教材費	なし
公民	学 習 内 容	<p>「公共」は時事問題に触れながら、多様な他者と広くつながる公共的空間である現代社会の特徴や課題について学んでいく科目です。</p> <p>学習項目としては【倫理分野】、【政治分野】、【経済分野】、【国際分野】、【現代の諸課題分野】など、幅広く様々な内容を扱います。</p> <p>私たちがこれからの時代を生き抜いていくために、社会の中で生きる力となる知識や論理的思考力を身につける科目です。</p>						
	条 件	1・2・3年次対象。原則2年次で登録する必修修科目。「現代社会」が未履修の4年次も登録可能。						
	留 意 事 項	「公共」を履修しないと次年度以降に「政治・経済」「倫理」を登録できない。						
	必 要 な も の	教科書						
	評 価 ・ 評 定 の 方 法	単元ごとの考査、授業への取り組み、提出物などを総合的に判断する。						
	観 点 別 の 評 価	<p>【知識・技能】 現代の諸課題をとらえ考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解し、身近な集団生活の中で活用することができる。</p> <p>【思考・判断・表現】 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や基本的原理を活用し、合意形成や社会参画を視野に考察したことを表現できる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。</p>						

2年次必修修科目

理科	【選択必修修】 科学と人間生活		単位数	2	定員	24	教材費	なし
	学 習 内 容	①物質の科学 ②生命の科学 ③光や熱の科学 ④宇宙や地球の科学		上記の内容について、講義・実験・観察等を通じて科学が人間生活にどのように関わっているかや科学の基本的な概念や原理・原則、技能を学び、日常生活や社会との関連を図りながら科学的に探究することを目指す。				
	条 件							
	留 意 事 項	「科学と人間生活」を履修した場合、「生物基礎」「化学基礎」「物理基礎」いずれかの履修が必要となる。						
	必 要 な も の	教科書、問題集、タブレット。そのほか教員が指示したもの。						
	評 価 ・ 評 定 の 方 法	出席状況、振り返りテスト、提出物、授業態度、授業の振り返り等を総合して評価する。						
	観 点 別 の 評 価	【知識・技能】自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。						
		【思考・判断・表現】自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活に関連した観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて科学的に探究している。						
		【主体的に学習に取り組む態度】自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとしている。						
	【選択必修修】 生物基礎		単位数	2	定員	24	教材費	なし
	学 習 内 容	①生物の特徴 ②遺伝子とそのはたらき ③ヒトの体の調節 ④生物の多様性と生態系		上記の内容について、講義・実験・観察等を通じて生物学の基本的な概念や原理・原則、技能を学び、日常生活や社会との関連を図りながら科学的に探究することを目指す。				
	条 件							
	留 意 事 項	3年次以上で「生物」を登録したい場合は、1・2年次で修得しておく必要有。						
	必 要 な も の	教科書、問題集、タブレット。そのほか教員が指示したもの。						
	評 価 ・ 評 定 の 方 法	出席状況、考査、提出物、授業態度、授業の振り返り等を総合して評価する。						
	観 点 別 の 評 価	【知識・技能】 生物や生命現象についての基本的な概念や原理・原則などを理解している。また、観察・実験などに関する基本的な技能を身に付けている。						
【思考・判断・表現】 課題の発見や観察・実験などを通して、生物や生命現象について考察し、表現できる。								
【主体的に学習に取り組む態度】 生物や生命現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。								
【選択必修修】 化学基礎		単位数	2	定員	24	教材費	なし	
学 習 内 容	・化学と人間生活（身近な物質を知る） ・物質の構成（物質の成分と構成元素、物質の構成粒子、物質と化学結合） ・物質の変化（物質と化学変化、酸と塩基、酸化と還元）		について適宜教員が選び、講義・実験・観察等を通じて理解し、また探究する技能と力を養う。物質を構成するものの特徴や関係性を見だし、それを表現できるようになることを目指す。					
条 件	1年次または2年次で「科学と人間生活」または「生物基礎」を履修していること。							
留 意 事 項	3年次以上で「化学実践」を登録したい場合は、2年次以上で修得しておく必要有。							
必 要 な も の	教科書、問題集、タブレット。そのほか教員が指示したもの。							
評 価 ・ 評 定 の 方 法	出席状況、テスト、提出物、授業態度、授業の振り返り等を総合して評価する。							
観 点 別 の 評 価	【知識・技能】物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。							
	【思考・判断・表現】物質とその変化に関する観察、実験などを行い、科学的に探究している。							
	【主体的に学習に取り組む態度】物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。							

2年次必修科目

理科	【選択必修】物理基礎	単位数	2	定員	24	教材費	なし	
	学 習 内 容	<ul style="list-style-type: none"> 物質の運動（速度、力、運動の法則） 波（波の性質、音） 		<ul style="list-style-type: none"> エネルギー（仕事、力学的エネルギー、熱） 電気（静電気、抵抗、交流、電気の利用） 				
	条 件	1年次または2年次で「科学と人間生活」または「生物基礎」を履修していること。						
	留 意 事 項	3年次以上で「物理実践」を登録したい場合は、2年次以上で修得しておく必要有。						
	必 要 な も の	教科書、問題集、タブレット。そのほか教員が指示したもの。						
	観 点 別 の 評 価	<p>【知識・技能】物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】物体の運動と様々なエネルギーに関する観察、実験などを行い、科学的に探究している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。</p>						
保健体育	体育Ⅱ	単位数	2	定員	30	教材費	なし	
	学 習 内 容	<p>「体育Ⅱ」では、1年次の基礎を土台にし、更なる運動技能の向上を目指して学習をします。</p> <ul style="list-style-type: none"> 球技、個人種目等、様々な運動種目を、1年間を通じてバランス良く学びます。 夏季の一定期間は、水泳と陸上競技の種目選択となります。また冬季の一定期間は、持久走及び縄跳びを学習します。 授業で体力テストを実施します。 						
	条 件	2年次対象必修科目 3・4年次の再登録者も登録すること。※再登録者も基本自部での登録						
	留 意 事 項	なし						
	必 要 な も の	体育着上下・Tシャツ・体育館シューズ（原則本校指定）、ハーフパンツ、グラウンド用シューズ 夏季種目で水泳選択者は、競泳用の水着（スパッツタイプ可）・水泳帽・ゴーグル（任意）						
	観 点 別 の 評 価	<p>【知識・技能】運動の合理的、計画的な実践を通して、各種の運動特性に応じた知識・技能及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題や運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】授業に積極的に参加し、運動における競争や協働の経験を通して、公正、協力、責任、参画、共生などを理解し意欲的に取り組むとともに、運動に親しみ健康の保持増進と体力の向上目指し取り組んでいる。</p>						
	▲保健Ⅱ	単位数	1	定員	30	教材費	なし	
	学 習 内 容	<p>「保健Ⅰ」に引き続き、個人及び社会生活における健康・安全についての理解を深めるとともに、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していくための力を身につける学習です。</p> <p>【「保健Ⅱ」での学習内容】</p> <p>1 現代社会と健康 ア) 現代の感染症 イ) 感染症の予防 ウ) 性感染症・エイズとその予防</p> <p>2 生涯を通じる健康 ア) 思春期と健康 イ) 性意識と性行動の選択 ウ) 妊娠・出産と健康 エ) 避妊法と人工妊娠中絶 オ) 結婚生活と健康</p>						
	条 件	2年次対象必修科目						
	留 意 事 項	なし						
必 要 な も の	教科書、学習ノート、端末							
観 点 別 の 評 価	<p>【知識・技能】健康に対して、各課題の原因や成り立ち、予防策や改善方法、個人と社会との関連などを理解している。また、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>【思考・判断・表現】自他や社会の課題を発見し、分析比較するなどし、予防策を考えている。自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由など筋道を立てて説明している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】授業に積極的に参加し各課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。</p>							

		家庭基礎	単位数	2	定員		教材費	¥1,500 (実習費)
家庭・社会福祉	学 習 内 容	人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得し、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を身に付けます。 (1) 共に生きる…人の一生と家族・家庭 (5) 装う…衣生活と家族の健康 (2) 豊かな生涯へ…保育と高齢者福祉 (6) 住まう…住生活と家族の健康 (3) 消費を考える…消費生活と環境 (消費者教育) (7) 学習を生かす (4) 食べる…食生活と家族の健康						
	条 件	必修						
	留 意 事 項	調理実習では、アクセサリー(ピアス、ネックレス、指輪等)・マニキュア(ネイル)・長い爪は禁止。長い髪は結ぶ。						
	必 要 な も の	調理実習時に胸当て付きエプロン、三角巾、ハンドタオルを各自用意する。プリント等を管理できるファイルを準備する。						
	評 価 ・ 評 定 の 方 法	確認テスト、課題への取り組み、作品の提出(完成度)、学習過程、出席の状況、プリント、授業記録を提出を総合して評価する。						
	観 点 別 の 評 価	【知識・技能】人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらにかかわる技能を身につけている。 【思考・判断・表現】生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。 【主体的に学習に取り組む態度】授業に必要な準備を整え、授業に参加して話を聞き、ワークシート等に積極的に取り組もうとしている。						
人間と社会	人間と社会		単位数	1	定員	なし	教材費	なし
	学 習 内 容	自分自身で自分や社会の課題を見付け、解決するために必要な力を身に付けることを目標としている教科です。授業では、地域清掃を行ったり、高齢者疑似体験や車いす体験を行ったりなど、さまざまな体験活動を行います。また、体験活動に加えて、自分および他者の生き方や考え方をテーマにグループディスカッションを行うなどし、自分の考えを表現したり、自分と異なる考えを認めたりしながら、生きていく上で必要な力を養っていきます。						
	条 件	2年次で登録する必修科目。3年次以上の再登録者も登録すること。						
	留 意 事 項	前期登録または後期登録になる。グループで行う授業が多くあります。欠席すると他の人へ迷惑がかかります。						
	必 要 な も の	準教科書、体育着						
	評 価 ・ 評 定 の 方 法	学習意欲、課題に対する個人活動・グループワークへの参加、ワークシート等の提出						
観 点 別 の 評 価	【知識・技能】情報を集め、整理・分析する力や、多面的・多角的に考察する力、考察したことを基に議論する力を身に付けている。 【思考・判断・表現】考察したことを他者に説明できる。また、グループディスカッション等において自分と異なる考えを認めることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】授業やグループワークに主体的に参加し、意欲的に取り組んでいる。							
総合	生活実践 (必修)		単位数	1	定員		教材費	¥500
	学 習 内 容	日常生活における一般常識や、社会人としての基本的マナーについて、実習や演習を通して知識や技術を身に付けるチャレンジスクールの指定科目です。 (1) コミュニケーション (2) あいさつ (3) 食事のマナー (4) 冠婚葬祭 (5) 敬語 (6) 訪問とおもてなし (7) 電話の応対 (8) 面接の基本動作 (9) 手紙の書き方 (10) その他 これだけは知っておきたい社会人の常識を身に付けよう。						
	条 件	2年次で登録する必修科目、再登録希望者も登録できる。						
	留 意 事 項	前期登録かまたは後期登録になる。						
	必 要 な も の	筆記用具						
	評 価 ・ 評 定 の 方 法	確認テスト、課題への取り組み、学習意欲、ワークシートの提出						
観 点 別 の 評 価	【知識・技能】日常生活の一般常識や社会人としての基本的マナーについて理解し、身に付けている。 【思考・判断・表現】実際の日常生活や社会生活を想像し、いろいろな場面で他者に不快な思いをさせない対応をとることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】授業に参加し、話をよく聞き、意欲的に取り組もうとしている。							

2年次必修科目

探究基礎		単位数	2	定員		教材費	なし
総合的な探究の時間	学習内容	3年次の課題研究へ向けての基礎的な科目です。 ① 自ら課題を見つける。 ② データを集める。 ③ データに基づき考察する。 ④ 考察した経過を資料にする。 ⑤ 発表を行う。 これらのことについて取り組んで力をつけ、課題研究に備えます。 ※ 3年次以上で探究基礎や基礎研究が未履修・未修得になっている人はこちらの科目を再登録してください。					
	条件	2、3、4年次限定。必修科目。					
	留意事項	なし					
	必要なもの	タブレット					
	評価・評定の方法	学習意欲、課題へについての個人活動・グループワークへの参加、ワークシート等の提出					
	観点別の評価	【知識・技能】 課題に取り組み、データ収集や調査・資料作成・発表の方法などを身につけている。					
		【思考・判断・表現】 収集したデータに基づいての考察、資料作成、発表に取り組む。					
		【主体的に学習に取り組む態度】 授業やグループワークに主体的に参加し、課題の発見・設定に積極的に取り組む。					

3年次 必履修科目

【注意事項】

- 科目名に【選択必履修】が付いている科目は受講する年次を選択することができる。理科の履修順序はP7の「理科の教科紹介」を参照。

理科	【選択必修】生物基礎		単位数	2	定員	24	教材費	なし	
	学 習 内 容	①生物の特徴 ③ヒトの体の調節		②遺伝子とのはたらき ④生物の多様性と生態系		上記の内容について、講義・実験・観察等を通じて生物学の基本的な概念や原理・原則、技能を学び、日常生活や社会との関連を図りながら科学的に探究することを目指す。			
	条 件								
	留 意 事 項	3年次以上で「生物」を登録したい場合は、1・2年次で修得しておく必要有。							
	必 要 な も の	教科書、問題集、タブレット。そのほか教員が指示したもの。							
	評価・評定の方法	出席状況、考査、提出物、授業態度、授業の振り返り等を総合して評価する。							
	観 点 別 の 評 価	【知識・技能】 生物や生命現象についての基本的な概念や原理・原則などを理解している。また、観察・実験などに関する基本的な技能を身に付けている。							
		【思考・判断・表現】 課題の発見や観察・実験などを通して、生物や生命現象について考察し、表現できる。							
		【主体的に学習に取り組む態度】 生物や生命現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。							
	【選択必修】化学基礎		単位数	2	定員	24	教材費	なし	
	学 習 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・化学と人間生活（身近な物質を知る） ・物質の構成（物質の成分と構成元素、物質の構成粒子、物質と化学結合） ・物質の変化（物質量と化学変化、酸と塩基、酸化と還元） 		について適宜教員が選び、講義・実験・観察等を通じて理解し、また探究する技能と力を養う。物質を構成するものの特徴や関係性を見だし、それを表現できるようになることを目指す。					
	条 件	1年次または2年次で「科学と人間生活」または「生物基礎」を履修していること。							
	留 意 事 項	3年次以上で「化学実践」を登録したい場合は、2年次以上で修得しておく必要有。							
	必 要 な も の	教科書、問題集、タブレット。そのほか教員が指示したもの。							
	評価・評定の方法	出席状況、テスト、提出物、授業態度、授業の振り返り等を総合して評価する。							
観 点 別 の 評 価	【知識・技能】 物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。								
	【思考・判断・表現】 物質とその変化に関する観察、実験などを行い、科学的に探究している。								
	【主体的に学習に取り組む態度】 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。								
【選択必修】物理基礎		単位数	2	定員	24	教材費	なし		
学 習 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・物質の運動（速度、力、運動の法則） ・波（波の性質、音） 		<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー（仕事、力学的エネルギー、熱） ・電気（静電気、抵抗、交流、電気の利用） 						
条 件	1年次または2年次で「科学と人間生活」または「生物基礎」を履修していること。								
留 意 事 項	3年次以上で「物理実践」を登録したい場合は、2年次以上で修得しておく必要有。								
必 要 な も の	教科書、問題集、タブレット。そのほか教員が指示したもの。								
評価・評定の方法	出席状況、考査、提出物、授業態度、授業の振り返り等を総合して評価する。								
観 点 別 の 評 価	【知識・技能】 物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。								
	【思考・判断・表現】 物体の運動と様々なエネルギーに関する観察、実験などを行い、科学的に探究している。								
	【主体的に学習に取り組む態度】 物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。								

3年次必修科目

保健体育	体育Ⅲ	単位数	3	定員	30	教材費	なし
	学習内容	<p>・3単位を2時間と1時間の2日に分けて行います。 【2時間】 前期の前半は男女ともに、体づくり、体育祭練習、スポーツテストを実施します。前期後半から後期は、「体育Ⅰ、Ⅱ」で学んだ種目から選択種目を設定し、種目毎に自主的に活動計画を立て、授業を展開する「種目選択制授業」を行います。 【1時間】 ニュースポーツ的要素の種目から施設に応じて行います。</p>					
	条件	3年次で登録する必修科目 4年次の再登録者も登録すること。※再登録者も基本自部での登録					
	留意事項	なし					
	必要なもの	体育着上下・Tシャツ・体育館シューズ（原則本校指定）、ハーフパンツ、グラウンド用シューズ					
	評価・評定の方法	実技テスト、学習カード、授業観察などで評価					
観点別の評価	【知識・技能】運動の合理的、計画的な実践を通して、各種の運動特性に応じた知識・技能及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身につけている。						
	【思考・判断・表現】生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題や運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。						
	【主体的に学習に取り組む態度】授業に積極的に参加し、運動における競争や協働の経験を通して、公正、協力、責任、参画、共生などを理解し意欲的に取り組むとともに、運動に親しみ健康の保持増進と体力の向上目指し取り組んでいる。						
総合的な探究の時間	課題研究	単位数	2	定員	60	教材費	留意事項参照
	学習内容	この科目は、探究基礎で学んだことを基礎として、研究テーマを決めて1年間をとおして主体的に研究をすすめ、レポートや作品づくりなどに取り組み、研究成果を発表します。					
	条件	3年次で登録する必修科目。「探究基礎」の履修（または同年度登録）で登録可能。4年次以上の再登録者も登録すること。					
	留意事項	研究に必要な材料等は各自で準備し、自己負担となります。それぞれテーマ等により異なりますので担当の先生の指示を受けて下さい。					
	必要なもの	各自のテーマにより異なる。					
	評価・評定の方法	課題への取り組み、学習意欲、授業への参加、発表					
観点別の評価	【知識・技能】課題を設定し、取り組んで、発表を行うことができる。						
	【思考・判断・表現】取り組んだ課題について考察し、表現できている。						
	【主体的に学習に取り組む態度】授業やグループワーク等に主体的に参加し、意欲的に取り組んでいる						

自由選択科目

【注意事項】

- 「対象年次」や「履修条件」が設定されている科目があります。これらを見落とすと履修違反となり、登録が取り消されます。

自由選択科目

国語	作文演習		対象 年次	2～	単位数	2	定員	24	教材費	なし	
	学 習 内 容		論理的に考え、適切に書ける力を養う。また、自己の気持ちや想いを文章に表現できる力も身に付ける。語句の知識、また敬語等の目的や場に応じた言葉遣いや工夫等についても学び、実践力を身に付けることをねらいとする。授業形態は講義と課題作文や小論文等の実践演習を行う。 年間学習計画（予定） 前期 ①ガイダンス ②漢字 ③慣用句・四字熟語 ④課題作文 後期 ①漢字 ②慣用句・四字熟語 ③課題作文 ④詩歌 ⑤小論文								
	条 件		2年次以降に受講可能。新6年次以上の生徒で「国語表現」を履修済みの生徒は登録不可。								
	留 意 事 項		継続的な出席が可能であること。語句の知識や作文等の課題に取り組めること。								
	必 要 な も の		ノート・筆記用具等								
	評価・評定の方法		単元ごとの考查、授業への取り組み、提出物などを総合的に判断する。								
	観 点 別 の 評 価		【知識・技能】論理的な表現や心情の表現、場面に応じた言葉遣い、語句の知識を身に付けている。								
			【思考・判断・表現】目的に応じて、的確に伝わるような論理展開の方法、言語情報の整理の仕方等を理解している。								
			【主体的に学習に取り組む態度】積極的に授業に参加し、主体的に学ぼうとしている。								
	日本語コミュニケーション実践		対象 年次	2～	単位数	2	定員	15	教材費	なし	
	学 習 内 容		言葉による他人との関わり方を学ぶ。「話すこと」「聞くこと」「書くこと」という言語活動を通して、①適切な人間関係を作る力、②自分の心情や価値観を表現する力、③相手に伝わりやすい表現をする力を身につける。授業形態は実践中心。コミュニケーションの専門家が外部講師として指導する時間が多くある。（ただし11・12限目の授業では、外部講師の指導時間はほとんど設定しない予定。） 年間学習計画（予定） 前期 ①ガイダンス ②信頼関係作り ③傾聴実習 後期 ①ファシリテータ実習 ②パブリックスピーチ ③スピーチ実践								
	条 件		2年次以降に受講可能。								
	留 意 事 項		継続的な出席が可能であること。毎時間ペアやグループで話し合うなどの活動をする。								
	必 要 な も の		筆記用具等								
評価・評定の方法		出欠状況、振り返りテスト、授業への取り組み、提出物などを総合的に判断する。									
観 点 別 の 評 価		【知識・技能】他者とのコミュニケーションに必要な知識を身に付けている。									
		【思考・判断・表現】場面や目的に応じて、適切に表現できている。									
		【主体的に学習に取り組む態度】積極的に授業に参加し、主体的に学ぼうとしている。									
演劇		対象 年次	2～	単位数	2	定員	21	教材費	なし		
学 習 内 容		演劇を通して言語や身体による自己表現力を高め、他人との関わり方を学ぶ。演劇の専門家が外部講師として年間を通じて指導する。 年間学習計画（予定） 前期 ①ガイダンス ②演劇の基礎 ③体操・動き・呼吸・発声などの、体を動かしたり声を出したりする基本的な表現実習 後期 ①演目設定 ②発表に向けた練習(読み稽古・立ち稽古・舞台稽古) ③舞台発表(学習成果発表会)									
条 件		2年次以降に受講可能。									
留 意 事 項		継続的な出席が可能であること。									
必 要 な も の		体操着・上履き									
評価・評定の方法		出欠状況、振り返りテスト、授業への取り組み、提出物などを総合的に判断する。									
観 点 別 の 評 価		【知識・技能】声の出し方や姿勢など演劇における表現方法を身に付けている。									
		【思考・判断・表現】場面や目的に応じて、適切に表現できている。									
		【主体的に学習に取り組む態度】積極的に授業に参加し、主体的に学ぼうとしている。									

自由選択科目

現代文演習		対象年次	3~	単位数	2	定員	30	教材費	なし
国語	学 習 内 容	必修科目の内容を発展させた学習をする。随筆、小説、詩歌、評論など、さまざまな分野の現代文に触れ、味わい、読む力をつける。文学史も学習する。授業形態は講義中心。 年間学習計画（予定） 前期 ①ガイダンス ②作品読解 ③演習 後期 ①作品読解 ②演習							
	条 件	3年次以降受講可能。新6年次以上の生徒で「現代文A」を履修済みの生徒は登録不可。							
	留 意 事 項	特になし。							
	必 要 な も の	ノート・筆記用具等							
	評 価 ・ 評 定 の 方 法	単元ごとの振り返りテスト、授業への取り組み、提出物などを総合的に判断する。							
観 点 別 の 評 価	【知識・技能】漢字・語句や語彙力・文章の表記の仕方等を身につけている。								
	【思考・判断・表現】目的に応じて、的確に伝わるような論理展開の方法、言語情報の整理の仕方等を理解している。								
	【主体的に学習に取り組む態度】積極的に授業に参加し、主体的に学ぼうとしている。								
古典演習		対象年次	3~	単位数	2	定員	30	教材費	なし
国語	学 習 内 容	必修科目の内容を発展させた学習をする。現代語訳も利用しながら、古典作品（古文・漢文）について学習する。まとまった内容をつかみ、古典のおもしろさを味わう。文法、文学史も学習する。授業形態は講義中心。 年間学習計画（予定） 前期 ①ガイダンス ②作品読解 ③演習 後期 ①作品読解 ②演習							
	条 件	3年次以降受講可能。新6年次以上の生徒で「古典A」を履修済みの生徒は登録不可。							
	留 意 事 項	特になし。							
	必 要 な も の	ノート・筆記用具等							
	評 価 ・ 評 定 の 方 法	単元ごとの振り返りテスト、授業への取り組み、提出物などを総合的に判断する。							
観 点 別 の 評 価	【知識・技能】古典の語句や文法、語彙力・文章の表記の仕方等を身につけている。								
	【思考・判断・表現】目的に応じて、語句や文法を適切に判断する方法、言語情報の整理の仕方等を理解している。								
	【主体的に学習に取り組む態度】積極的に授業に参加し、主体的に学ぼうとしている。								
実践国語		対象年次	3~	単位数	2	定員	30	教材費	なし
国語	学 習 内 容	就職試験・SPI類出の国語常識問題を学習する。また、手紙の書き方、電話対応の仕方など、社会人として必要なスキルを身に付ける。主に演習形式で、基礎編・応用編・実践編と3つのパートに分けて取り組んでいく。 前期 ①ガイダンス ②基礎編（漢字・読み書き、同訓・同音異字、ことわざ・慣用語、文学史など） 後期 ③応用編（漢字・読み書き、誤字訂正、熟語の構成、四字熟語、口語文法、敬語など） ④実践編（文章の書き方、手紙の書き方、電話対応の仕方など） 授業形態 1コマ目 テキスト演習 / 2コマ目 答え合わせ、プリント問題演習							
	条 件	3年次以降に受講可。							
	留 意 事 項	特に就職試験を受ける予定の生徒は受講推奨。 ※大学進学対策ではないので要注意。							
	必 要 な も の	テキスト、筆記用具等							
	評 価 ・ 評 定 の 方 法	小テスト、単元ごとの振り返りテスト、授業への取り組み、提出物などを総合的に判断する。							
観 点 別 の 評 価	【知識・技能】国語常識（漢字、文法）等を身につけている。								
	【思考・判断・表現】目的に応じて、語句や文法を適切に表現する方法等を理解している。								
	【主体的に学習に取り組む態度】積極的に授業に参加し、主体的に学ぼうとしている。								

地理歴史	地理探究		対象年次	2～5	単位数	4	定員	30	教材費	なし	
	学習内容	○地形・気候・環境問題を中心とした「自然地理」 ○農業・資源・エネルギー・工業・観光・都市・人口を中心とした「人文地理」 上記の2つを学習し、世界の多種多様な自然環境や人間生活を解き明かしていきます。その活動の中で、エネルギー問題や食糧問題など世界が抱える課題と向き合い、社会の一員として解決方法を考えていきます。 （※「地理総合」で使用した地図帳を使いますので捨てないでください。）									
	条件	2～4年次対象（新6年次不可）。「地理総合」を履修していること。									
	留意事項	「地理総合」との同時登録はできない。									
	必要なもの	教科書、地図帳、ノート、色鉛筆など。									
	評価・評定の方法	単元ごとのテスト、授業への取り組み、課題や提出物などを総合的に判断します。									
	観点別の評価	【知識・技能】地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解している。									
		【思考・判断・表現】地理に関わる事象の意味や相互の関連を、位置や分布、人間と自然環境との関係などに着目して考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したことを効果的に説明したりできる。									
		【主体的に学習に取り組む態度】地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。									
	世界史探究		対象年次	2～5	単位数	4	定員	30	教材費	なし	
	学習内容	世界の諸地域について、古代から近現代までの歴史を詳しく学習します。 ○地域や国をこえて人々のつながりが強まっている現在の世界が、どのようにして出来上がってきたのか ○時代や地域ごとに様々な特徴や差異がみられること ○歴史資料の読み取り、調べ学習などを、地域・時代ごとに学習していきましょう。									
	条件	2～4年次対象（新6年次不可）。「歴史総合」を履修していること。									
	留意事項	「歴史総合」との同時登録はできない。「世界史プラス」との同時登録はできない。									
	必要なもの	教科書									
	評価・評定の方法	単元ごとのテスト、授業への取り組み、課題や提出物などを総合的に判断します。									
観点別の評価	【知識・技能】世界の歴史を、地理や日本史の知識と関連付けながら理解し、資料などから歴史の背景や詳細を読み取る技能が身についている。										
	【思考・判断・表現】時代や地域の特徴を理解しつつ、出来事の背景を考察したり、現代にもつながる課題点や解決の方法などを多面的・多角的に考察し表現することができている。										
	【主体的に学習に取り組む態度】歴史をふまえながら現代社会の課題や未来のことを主体的に考えて学ぼうとしている。										
日本史探究		対象年次	2～5	単位数	4	定員	30	教材費	なし		
学習内容	原始・古代、中世、近世、近現代の順に日本の歴史を詳しく学習していきます。 ○歴史の展開や時代の転換点 ○国家や社会が形成されていく様子 ○歴史資料を活用した情報の読み取りや調べ学習などを、時期・年代ごとに学習していきましょう。										
条件	2～4年次対象（新6年次不可）。「歴史総合」を履修していること。										
留意事項	「歴史総合」との同時登録はできない。「日本史プラス」との同時登録はできない。										
必要なもの	教科書等										
評価・評定の方法	単元ごとのテスト、授業への取り組み、課題や提出物などを総合的に判断します。										
観点別の評価	【知識・技能】日本の歴史を地理や世界史の知識と関連付けながら理解し、資料などから歴史の背景や詳細を読み取る技能が身についている。										
	【思考・判断・表現】日本の歴史について、出来事の背景の考察や年代による推移・比較などを考え、現代にもつながる課題点や解決の方法などを多面的・多角的に考察し表現することができている。										
	【主体的に学習に取り組む態度】歴史をふまえながら現代社会の課題や未来のことを主体的に考えて学ぼうとしている。										

地理歴史	地理プラス		対象年次	2～	単位数	2	定員	30	教材費	なし	
	学 習 内 容	日本地誌を学習します。北海道から九州地方まで、地形・気候といった自然環境からその地域の産業や文化を読み解いていきます。 Q.東北地方はなぜコメの生産量が多いのか？ Q.群馬県名物「かかあ天下とからっ風」とは何か？ などなど われわれが暮らす日本のことを学習していきます。									
	条 件	2～4年次対象									
	留 意 事 項	「地理A」を履修した者は登録できない。									
	必 要 な も の	地図帳、副教材、色鉛筆									
	評 価 ・ 評 定 の 方 法	出欠状況、単元ごとのテスト、授業への取り組み、課題や提出物などを総合的に判断します。									
	観 点 別 の 評 価	【知識・技能】地理に関わる諸事象に関して、空間的な諸事象の規則性、傾向性や、地域的特色や課題などを理解している。									
		【思考・判断・表現】地理に関わる事象の意味や相互の関連を、位置や分布、人間と自然環境との関係などに着目して考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したことを効果的に説明したりできる。									
		【主体的に学習に取り組む態度】地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。									
	世界史プラス		対象年次	2～	単位数	2	定員	30	教材費	なし	
	学 習 内 容	世界の諸地域について、原始・古代から近代までの歴史を学習します。 ○地域や国をこえて人々のつながりが強まっている現在の世界が、 どのようにして出来上がってきたのか ○時代や地域ごとに様々な特徴や差異がみられること ○歴史資料の読み取り、調べ学習 などを、地域・時代ごとに学習していきましょう。									
	条 件	2～4年次対象									
	留 意 事 項	「世界史探究」との同時受講はできない。「世界史演習」を履修した者は登録できない。									
	必 要 な も の	副教材									
	評 価 ・ 評 定 の 方 法	単元ごとのテスト、授業への取り組み、課題や提出物などを総合的に判断します。									
観 点 別 の 評 価	【知識・技能】世界の歴史を、地理や日本史の知識と関連付けながら理解し、資料などから歴史の背景や詳細を読み取る技能が身についている。										
	【思考・判断・表現】時代や地域の特徴を理解しつつ、出来事の背景を考察したり、現代にもつながる課題点や解決の方法などを多面的・多角的に考察し表現することができている。										
	【主体的に学習に取り組む態度】歴史をふまえながら現代社会の課題や未来のことを主体的に考えて学ぼうとしている。										
日本史プラス		対象年次	2～	単位数	2	定員	30	教材費	なし		
学 習 内 容	原始・古代から近代までの日本の歴史を学習します。 基本的な知識を身につけるとともに、歴史的な思考・判断・表現を養うことを目的とし、応用的な内容も含まれます。 史資料の読み解きや、調べ学習を通して、時代の特徴をつかみながら、学習を進めていきましょう。										
条 件	2～4年次対象										
留 意 事 項	「日本史探究」との同時受講はできない。「日本史演習」を履修した者は登録できない。										
必 要 な も の	副教材										
評 価 ・ 評 定 の 方 法	単元ごとのテスト、授業への取り組み、課題や提出物などを総合的に判断します。										
観 点 別 の 評 価	【知識・技能】日本の歴史を地理や世界史の知識と関連付けながら理解し、資料などから歴史の背景や詳細を読み取る技能が身についている。										
	【思考・判断・表現】日本の歴史について、出来事の背景の考察や年代による推移・比較などを考え、現代にもつながる課題点や解決の方法などを多面的・多角的に考察し表現することができている。										
	【主体的に学習に取り組む態度】歴史をふまえながら現代社会の課題や未来のことを主体的に考えて学ぼうとしている。										

自由選択科目

公民	倫理		対象 年次	2～	単位数	2	定員	30	教材費	なし
	学 習 内 容	倫理で学ぶことは、主に哲学と思想、宗教と心理学の分野です。 具体的には、青年期の課題と自己形成、ギリシャ哲学、キリスト教、イスラーム、仏教の思想、中国の思想、近代思想（経験論と合理論、社会契約、カントとヘーゲル、社会主義思想、実存主義）、日本の風土と伝統、日本仏教の発展、などです。思想が生まれる時代背景を確認しながら、人はどういう時に何を思うのか、思想がどのように歴史に関わってきたのかを学び、今の時代を生きる人間としての思考力をはぐくみます。高校生のうちに、先哲の思想を学びながら自分の生き方・あり方について考えましょう。 様々な問いに対して自分の考えを持つワークも行っていきます。								
	条 件	1年次：登録不可。2年次以上：「公共」を履修したこと。（新6年次は条件なし）								
	留 意 事 項	「公共」との同時登録はできない（ただし、21期生以前は除く）。								
	必 要 な も の	教科書								
	評価・評定の方法	単元ごとのテスト、授業への取り組み、提出物などを総合的に判断する。								
	観 点 別 の 評 価	【知識・技能】古今東西の幅広い先哲の思想や哲学、宗教思想を理解し、自己の在り方生き方を考える上で活用することができる。 【思考・判断・表現】先哲の思想や哲学、宗教思想の知識を活用して、現代の倫理的諸課題を解決するための方法を論理的かつ多面的・多角的に思考し、判断するとともに、他者に発表することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】先哲の思想や哲学、宗教思想を用いて、自己および人間としての在り方生き方について主体的に追究している。								
	政治・経済		対象 年次	2～	単位数	2	定員	30	教材費	なし
	学 習 内 容	現代の政治や経済に関心の高い人向けの講座です。単元に関する時事問題も取り上げます。 1 現代の政治…民主主義の基本原則、日本の政治制度について理解を深め、その課題について考える。 2 現代の経済…経済社会の変容や現代経済のしくみについて理解を深め、その課題について考える。 3 現代社会の諸課題…さまざまな社会問題について調べたり、考えたりする。								
	条 件	1年次：登録不可。2年次以上：「公共」を履修したこと。（新6年次は条件なし）								
留 意 事 項	「公共」との同時登録はできない（ただし、21期生以前は除く）。									
必 要 な も の	教科書									
評価・評定の方法	単元ごとのテスト、授業への取り組み、提出物などを総合的に判断する。									
観 点 別 の 評 価	【知識・技能】現代の政治や経済の特徴やしくみを理解し、身近な集団生活の中で活用することができる。 【思考・判断・表現】国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して議論し、公正に判断することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養い、多面的・多角的な考察や深い理解を通して探究することができる。									
数学	数学Ⅱ		対象 年次	2～	単位数	4	定員	30	教材費	なし
	学 習 内 容	教科書を使用して、「数学Ⅰ」を学び終えた次の段階を学習する。 (1) 式と証明 (2) 複素数と方程式 (3) 図形と方程式 (4) 三角関数 (5) 指数関数と対数関数 (6) 微分法と積分法 * 上級学校進学に対応するので登録希望生徒は数学科へ必ず相談すること。 * 定期的に課題を課す。一斉テストの他、定期的に小テストを実施する。								
	条 件	「数学Ⅰ」を履修していること。								
	留 意 事 項	「数学Ⅰ」の成績評定5を望む。この「数学Ⅱ」の履修が、「数学Ⅲ」の登録条件となる。「数学A」の「場合の数と確率」の内容は既習であることが望ましい。								
	必 要 な も の	ノート、タブレット								
	評価・評定の方法	ノートや振り返りシートの記述内容・課題の取り組み状況・小テスト・単元テスト								
	観 点 別 の 評 価	【知識・技能】 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 【思考・判断・表現】 数学を活用して事象を論理的に考察し、数学的な表現を用いて事象を表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている。								

数学	数学Ⅲ		対象 年次	2~5	単位数	4	定員	30	教材費	なし	
	学 習 内 容	教科書を使用して、「数学Ⅱ」を学び終えた次の段階を学習する。 (1) 関数 (2) 極限 (3) 微分法 (4) 微分法の応用 (5) 積分法とその応用 * 上級学校進学に対応するので登録希望生徒は数学科へ必ず相談すること。 * 定期的に課題を課す。一斉テストの他、定期的に小テストを実施する。									
	条 件	「数学Ⅱ」を履修していること。3年次限定。(新6年次不可)									
	留 意 事 項	「数学Ⅱ」の成績評定5を望む。 「数学A」「数学B」の内容は既習であることが望ましい。									
	必 要 な も の	ノート、タブレット									
	評 価 ・ 評 定 の 方 法	ノートや振り返りシートの記述内容・課題の取り組み状況・小テスト・単元テスト									
	観 点 別 の 評 価	【知識・技能】 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。									
		【思考・判断・表現】 数学を活用して事象を論理的に考察し、数学的な表現を用いて事象を表現できる。									
		【主体的に学習に取り組む態度】 粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている。									
	数学A		対象 年次	1~	単位数	2	定員	30	教材費	なし	
	学 習 内 容	主に教科書を使用した学習を進めていく。 (1) 場合の数と確率 (2) 図形の性質 (3) 数学と人間の活動 * 数え上げや確率、平面図形と空間図形、倍数や約数などを学習する。 それぞれの章で小学校や中学校で学んだことを少し発展させた内容を扱う。 * 上級学校進学に対応するので登録希望生徒は数学科へ必ず相談すること。 * 定期的に課題を課す。一斉テストの他、定期的に小テストを実施する。									
	条 件	「数学Ⅰ」を同年度登録する生徒は標準クラス(習熟度)に所属する。									
	留 意 事 項	「数学Ⅰ」を修得していることを望む。次年度以降に「数学B」を登録する場合、「数学A」を修得していることが望ましい。									
必 要 な も の	ノート、タブレット										
評 価 ・ 評 定 の 方 法	ノートや振り返りシートの記述内容・課題の取り組み状況・小テスト・単元テスト										
観 点 別 の 評 価	【知識・技能】 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。										
	【思考・判断・表現】 数学を活用して事象を論理的に考察し、数学的な表現を用いて事象を表現できる。										
	【主体的に学習に取り組む態度】 粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている。										
数学B		対象 年次	2~	単位数	2	定員	30	教材費	なし		
学 習 内 容	教科書を使用して、「数学Ⅱ」を学びながら、または学び終えた段階による学習をする。 (1) 数列 (2) 統計的な推測 (3) 数学と社会生活 * 「数学A」の「場合の数と確率」、および「数学Ⅱ」の内容は既習として、より発展的な内容を扱う。 * 上級学校進学に対応するので登録希望生徒は数学科へ必ず相談すること。 * 定期的に課題を課す。一斉テストの他、定期的に小テストを実施する。										
条 件	「数学Ⅱ」を履修しているか、または、同年度登録であること。2、3年次限定。										
留 意 事 項	「数学A」を修得していることが望ましい。										
必 要 な も の	ノート、タブレット										
評 価 ・ 評 定 の 方 法	ノートや振り返りシートの記述内容・課題の取り組み状況・小テスト・単元テスト										
観 点 別 の 評 価	【知識・技能】 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。										
	【思考・判断・表現】 数学を活用して事象を論理的に考察し、数学的な表現を用いて事象を表現できる。										
	【主体的に学習に取り組む態度】 粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている。										

数学C		対象 年次	2~5	単位数	2	定員	30	教材費	なし	
数学	学習内容	教科書を使用して、「数学Ⅱ」を学びながら、または学び終えた段階による学習をする。 (1) 平面上のベクトル (2) 空間のベクトル (3) 複素数平面 (4) 式と曲線 (5) 数学的な表現の工夫 * 「数学A」の「図形の性質」、および「数学Ⅱ」の内容は既習として、より発展的な内容を扱う。 * 上級学校進学に対応するので登録希望生徒は数学科へ必ず相談すること。 * 定期的に課題を課す。一斉テストの他、定期的に小テストを実施する。								
	条件	「数学Ⅱ」を履修しているか、または、同年度登録であること。2、3年次限定。(新6年次不可)								
	留意事項	「数学A」を修得していることが望ましい。								
	必要なもの	ノート、タブレット								
	評価・評定の方法	ノートや振り返りシートの記述内容・課題の取り組み状況・小テスト・単元テスト								
	観点別の評価	【知識・技能】 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。								
		【思考・判断・表現】 数学を活用して事象を論理的に考察し、数学的な表現を用いて事象を表現できる。								
		【主体的に学習に取り組む態度】 粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている。								
	やさしい数楽		対象 年次	1	単位数	2	定員	30	教材費	なし
	数学	学習内容	・「数学Ⅰ」の内容と運動し、基礎クラスの内容をやさしく学ぶ。 ・算数、数学が苦手、以下の計算で1つでもわからない計算がある人を対象とする。 $-4+8=$ 、 $3+(-6)=$ 、 $-2-9=$ 、 $(-4)\times 7=$ 、 $4\div(-2)=$ ・毎回の授業で数学パズルを学習し、楽しみながら四則演習や集中力を養う。 * 一斉テストを実施する。							
条件		1年次限定。								
留意事項		小中学校での算数・数学がほとんどわからない生徒は、受講することが望ましい。 苦手な生徒のみ受講をすすめる。「数学A」との同時登録は特別な事情がない限り控える。								
必要なもの		ワークシート(授業で配布)、「数学Ⅰ」の教科書、タブレット								
評価・評定の方法		ワークシートや振り返りシートの記述内容・課題の取り組み状況・単元テスト								
観点別の評価		【知識・技能】 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。								
		【思考・判断・表現】 数学を活用して事象を論理的に考察し、数学的な表現を用いて事象を表現できる。								
		【主体的に学習に取り組む態度】 粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている。								
生活の中の数学		対象 年次	2~	単位数	2	定員	30	教材費	なし	
数学		学習内容	数学に親しむことができるような題材を扱い、ワークシートによる学習を進めていく。 ペンシルパズル(賢賢、魔方陣、数独、四角に切れ、ブリッジパズル、ビルディングパズル)、ポリオミノ、 <u>古代の記数法</u> 、 <u>迷路問題</u> 、多面体作成(サッカーボール、正多面体、星形60面体)、折り紙で考える数学、イラストロジック、 <u>電卓の使い方</u> 、クリプトカードゲームなど。 * 一斉テストを実施する。							
	条件	2年次以上								
	留意事項	工作課題が授業内で完成しない場合、宿題となる。								
	必要なもの	筆記用具								
	評価・評定の方法	ワークシートや振り返りシートの記述内容・課題の取り組み状況・工作課題・単元テスト								
	観点別の評価	【知識・技能】 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。								
		【思考・判断・表現】 数学を取り入れた工作や折り紙での物作りなどを通して、事象を論理的に考察し表現できる。								
		【主体的に学習に取り組む態度】 身の回りの現象を数学的な観点で捉え、その不思議や数学の美しさに触れようとしている。								

自由選択科目

生物		対象年次	3～	単位数	4	定員	24	教材費	なし
理科	学 習 内 容	①生物の進化 ②生命現象と物質 ③遺伝情報の発現と発生		④生物の環境応答 ⑤生態と環境		上記の内容について、講義・実験・観察等を通じて生物学の基本的な概念や原理・原則、技能を学び、日常生活や社会との関連を図りながら科学的に探究することを目指す。			
	条 件	3年次以上で「生物基礎」をすでに修得した者を対象とする。受講登録の申請前に理科教員に相談しなければ登録できない。							
	留 意 事 項	生物系の学部学科への進学を希望する者を対象とする。							
	必 要 な も の	教科書、問題集、タブレット。そのほか教員が指示したもの。							
	評 価 ・ 評 定 の 方 法	出席状況、振り返りテスト、提出物、授業態度、授業の振り返り等を総合して評価する。							
観 点 別 の 評 価	【知識・技能】	生物学についての基本的な概念や原理・原則などを理解し、観察・実験などに関する基本的な技能を身に付けている。							
	【思考・判断・表現】	生物や生物現象から問題を見つけ、観察・実験などを行い、科学的に探究している。							
	【主体的に学習に取り組む態度】	生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。							
化学実践		対象年次	3～	単位数	2	定員	24	教材費	なし
理科	学 習 内 容	<ul style="list-style-type: none"> 化学と人間生活（身近な物質を知る） 物質の構成（物質の成分と構成元素、物質の構成粒子、物質と化学結合） 物質の変化（物質量と化学変化、酸と塩基、酸化と還元） その他化学に関する分野 について適宜教員が選び、講義・実験・観察等を通じて理解し、また探究する技能と力を養う。物質を構成するものの特徴や関係性を見だし、それを表現できるようになることを目指す。 ※前年度までの化学演習と比べ、受験を意識した講座ではありません。							
	条 件	3年次以上で「化学基礎」をすでに修得した者。「化学演習」を履修していない者。							
	留 意 事 項	大学受験で化学基礎・化学を利用する生徒は、理科教員に相談してください。							
	必 要 な も の	教科書、問題集。そのほか教員が指示したもの。							
	評 価 ・ 評 定 の 方 法	出席状況、テスト、提出物、授業態度、授業の振り返り等を総合して評価する。							
観 点 別 の 評 価	【知識・技能】	物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。							
	【思考・判断・表現】	物質とその変化に関する観察、実験などを行い、科学的に探究している。							
	【主体的に学習に取り組む態度】	物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。							
物理実践		対象年次	3～	単位数	2	定員	24	教材費	なし
理科	学 習 内 容	<ul style="list-style-type: none"> エネルギー（仕事、力学的エネルギー、熱とエネルギー） 波動（波の性質、音波） 電磁気（静電気、電荷と電流、電流と磁場、電磁誘導と電磁波） 物理基礎の復習、物理基礎および物理の問題演習 これらの中から適宜教員が選び、講義・演習や実験を行う。 ※前年度までの物理演習と比べ、受験を意識した講座ではありませんが、数学的な素養を必要とする場面もあります。							
	条 件	3年次以上で「物理基礎」をすでに修得した者。「物理演習」を履修していない者。							
	留 意 事 項	大学受験で物理基礎・物理を利用する生徒は、理科教員に相談してください。							
	必 要 な も の	教科書、問題集。そのほか教員が指示したもの。							
	評 価 ・ 評 定 の 方 法	出席状況、考査、提出物、授業態度、授業の振り返り等を総合して評価する。							
観 点 別 の 評 価	【知識・技能】	物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。							
	【思考・判断・表現】	物体の運動と様々なエネルギーに関する観察、実験などを行い、科学的に探究している。							
	【主体的に学習に取り組む態度】	物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。							

自由選択科目

体育	保健Ⅰ 再	対象 年次	2~	単位数	1	定員	30	教材費	なし	
	学 習 内 容	個人及び社会生活における健康・安全についての理解を深めるとともに、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していくための力を身につけます。 【「保健Ⅰ」での学習内容】 現代社会と健康 ア) 健康の考え方と成り立ち イ) 私たちの健康のすがた ウ) 生活習慣病の予防と回復 エ) がんの原因、予防、治療、回復 オ) 食事・運動・休養・睡眠と健康 カ) 喫煙・飲酒・薬物乱用と健康 キ) 精神疾患の特徴、予防、回復 ク) 健康に関する意思決定、行動選択、環境づくり など *上記の内容によっては実験や実習、課題学習を行います。								
	条 件	2~4年次の再登録者が登録する必修修科目								
	留 意 事 項	なし								
	必 要 な も の	教科書、学習ノート、端末								
	評価・評定の方法	学力テスト、学習カード、授業観察などで評価								
	観 点 別 の 評 価	【知識・技能】健康に対して、各課題の原因や成り立ち、予防策や改善方法、個人と社会との関連などを理解している。また、理解したことを言ったり書いたりしている。								
		【思考・判断・表現】自他や社会の課題を発見し、分析比較するなどし、予防策を考えている。自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由など筋道を立てて説明している。								
		【主体的に学習に取り組む態度】授業に積極的に参加し各課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。								
	保健Ⅱ 再	対象 年次	3~	単位数	1	定員	30	教材費	なし	
学 習 内 容	「保健Ⅰ」に引き続き、個人及び社会生活における健康・安全についての理解を深めるとともに、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していくための力を身につける学習です。 【「保健Ⅱ」での学習内容】 1 現代社会と健康 ア) 現代の感染症 イ) 感染症の予防 ウ) 性感染症・エイズとその予防 2 生涯を通じる健康 ア) 思春期と健康 イ) 性意識と性行動の選択 ウ) 妊娠・出産と健康結婚生活と健康 エ) 避妊法と人工妊娠中絶 オ) 結婚生活と健康 *2年間の保健授業のまとめとして、個人で課題を設定し、調べ学習を行います。									
条 件	3・4年次の再登録者が登録する必修修科目									
留 意 事 項	なし									
必 要 な も の	教科書、学習ノート、端末									
評価・評定の方法	学力テスト、学習カード、授業観察などで評価									
観 点 別 の 評 価	【知識・技能】健康に対して、各課題の原因や成り立ち、予防策や改善方法、個人と社会との関連などを理解している。また、理解したことを言ったり書いたりしている。									
	【思考・判断・表現】自他や社会の課題を発見し、分析比較するなどし、予防策を考えている。自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由など筋道を立てて説明している。									
	【主体的に学習に取り組む態度】授業に積極的に参加し各課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。									
ダンス	対象 年次	1~	単位数	2	定員	12+3	教材費	なし		
学 習 内 容	・身体表現の基本である「自分自身を解放」することから、身体の使い方や動き方、作品の創作方法を学びます。初心者でもやる気さえあれば取り組むことは可能です。 ・様々なリズムや表現のダンスを経験し、ダンスの特性を理解します。また、創作作品に取り組むことや発表することを体験しながら、作品の構成の仕方や創作の手順、作品の効果などを学びます。 ・最終目標として、個人やグループで課題を設定し、互いに協力しあって創作活動に取り組み、授業の成果を発表します。グループごとの活動が主になります。									
条 件	受講登録説明会当日の科目調べに出席すること。もしくは、登録前に保健体育科の教員と面談をすること。学習成果発表会で発表すること。									
留 意 事 項	人前で身体表現することに抵抗がない者を対象とする。									
必 要 な も の	服装等は必修修体育に準ずる。創作活動で必要な物品が出た場合、個人負担。									
評価・評定の方法	出欠状況、取り組み姿勢など総合的に評価する。									
観 点 別 の 評 価	【知識・技能】運動の合理的、計画的な実践を通して、各種の運動特性に応じた知識・技能及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身につけている。									
	【思考・判断・表現】生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題や運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や中間の考えたことを他者に伝えている。									
	【主体的に学習に取り組む態度】授業に積極的に参加し、運動における競争や協働の経験を通して、公正、協力、責任、参画、共生などを理解し意欲的に取り組むとともに、運動に親しみ健康の保持増進と体力の向上目指し取り組んでいる。									

自由選択科目

体育	ニュースポーツ		対象 年次	1～	単位数	2	定員	17+3	教材費	なし
	学 習 内 容	<p>「ニュースポーツ」とは、最近になって日本に紹介されたスポーツや日本で新しく開発されたスポーツを学びます。この授業を通して、様々なニュースポーツの種目を体験し、生涯にわたる豊かなスポーツライフの基礎を養います。</p> <p>【主な実技内容】 アルティメット・水泳・ターゲットバードゴルフ・ピックルボール・ソフトバレーボール・インディアカ等</p>								
	条 件	受講登録説明会当日の科目調べに出席すること。もしくは、登録前に保健体育科の教員と面談をすること。水泳を含むすべての実技に参加すること。								
	留 意 事 項	他年次と協力してスポーツを楽しむことができる者を対象とする。夏期の一定期間はプールで水泳に関連した授業を実施する。								
	必 要 な も の	服装等は必修修体育に準ずる。 競泳用の水着（スパッツタイプ可）・水泳帽・ゴーグル（任意）								
	評価・評定の方法	出欠状況、取り組み姿勢など総合的に評価する。								
	観 点 別 の 評 価	<p>【知識・技能】運動の合理的、計画的な実践を通して、各種の運動特性に応じた知識・技能及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身につけている。</p> <p>【思考・判断・表現】生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題や運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】授業に積極的に参加し、運動における競争や協働の経験を通して、公正、協力、責任、参画、共生などを理解し意欲的に取り組むとともに、運動に親しみ健康の保持増進と体力の向上を目指し取り組んでいる。</p>								
芸術	スポーツ科学		対象 年次	1～	単位数	2	定員	12+3	教材費	なし
	学 習 内 容	<p>・体育・スポーツに関する知識を習得し、「運動の合理的な実践」と「健康の増進と体力の向上」に活用することのできる資質や能力を育てます。</p> <p>・前期は、スポーツ・トレーニングに関する知識を講義や実践を通して学びます。 ・後期は、学習したことを生かし、自らの健康課題を見つけて計画的にトレーニングや体づくりに取り組んだり、トレーニング計画の作成と実践に取り組めます。</p> <p>【主な講義・実技内容】 <講義>「文化としてのスポーツの関わり方」「ライフスタイルとスポーツ」「オリンピックの歴史」 「運動技能の仕組みとそのとらえ方」など <実技>様々な器具（ベンチプレス、バーベル等）を使用したトレーニングの実践 各自の課題に合わせたトレーニングの実践</p>								
	条 件	受講登録説明会当日の科目調べに出席すること。もしくは、登録前に保健体育科の教員と面談をすること。長距離走を含むすべての実技に参加すること。								
	留 意 事 項	座学があります。後期には長距離走の実施があります。								
	必 要 な も の	服装等は必修修体育に準ずる。筆記用具、端末。								
	評価・評定の方法	出欠状況、取り組み姿勢など総合的に評価する。								
	観 点 別 の 評 価	<p>【知識・技能】運動の合理的、計画的な実践を通して、各種の運動特性に応じた知識・技能及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身につけている。</p> <p>【思考・判断・表現】生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題や運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】授業に積極的に参加し、運動における競争や協働の経験を通して、公正、協力、責任、参画、共生などを理解し意欲的に取り組むとともに、運動に親しみ健康の保持増進と体力の向上を目指し取り組んでいる。</p>								
芸術	音楽Ⅱ		対象 年次	2～	単位数	2	定員	20	教材費	なし
	学 習 内 容	<p>音楽に対するより深い理解を目指し、感性を磨くことを目的とします。次のような内容を中心に学習します。</p> <p>【表現】・歌唱…独唱及び合唱を通して作品理解を深め、楽曲に相應しい表現をする力を高めます。 日本歌曲をはじめ、外国語の原語による歌唱も幅広く取り上げます。 ・器楽…前期はクラシックギター、後期は三味線の奏法を学びます。</p> <p>【鑑賞】楽曲鑑賞や、オペラ・ミュージカル、日本の伝統芸能等の映像も鑑賞し、幅広い音楽観を身につけます。</p> <p>【その他】音符の種類やリズム等基礎的な知識を繰り返し学習し、楽譜を読む力を身に付けます。</p>								
	条 件	「音楽Ⅰ」を履修していること。								
	留 意 事 項	なし								
	必 要 な も の	教科書								
	評価・評定の方法	実技テスト、振り返りテスト、授業に向かう姿勢・態度の観察、プリント課題、出席の状況等								
	観 点 別 の 評 価	<p>【知識・技能】楽譜に書き込まれていることを理解したり、時代背景を知ったり上で、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。</p> <p>【思考・判断・表現】音楽との多様な関わり方に関心をもち、それらをどのように表現するかを考えて演奏したり、文章で表現したりすることにより、一層深く楽曲に関わろうとしている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。できない部分も根気よく練習する等、曲全体を自分なりの解釈で表現しようとしている。</p>								

自由選択科目

歌唱		対象年次	1～	単位数	2	定員	20	教材費	なし
芸術	学習内容	歌唱では、発声の基礎を身につけ、幅広い歌唱活動を行います。 【大きな声で歌う、人前で1人で歌う等の活動に抵抗なく取り組めることが必要です。】 ①発声練習を行い、歌うための体の使い方を知覚します。 ②独唱、斉唱、重唱、合唱など、さまざまな形態で歌います。 ③コンコーネ、イタリア歌曲、ドイツ歌曲、日本歌曲等、クラシック音楽を中心に様々な曲を学習します。 ④関連する曲等を鑑賞します。 ※J-POPや流行りの曲は扱いません。 ※実技テストは1人ずつ皆の前で歌います。							
	条件	「声楽」修得者は登録不可。							
	留意事項								
	必要なもの								
	評価・評定の方法	実技テスト、振り返りテスト、授業に向かう姿勢・態度の観察、プリント課題、出席の状況等							
	観点別の評価	【知識・技能】曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性などについて理解を深めている。創意工夫などを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱で表現している。 【思考・判断・表現】音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】音や音楽、音楽文化と豊かに関わり、主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。							
音楽演習		対象年次	1～	単位数	2	定員	20	教材費	なし
芸術	学習内容	音楽活動を行う際、必要となる基本的な力を身につける授業です。 次のような内容を中心に学習します。 前半1時間は講義で、後半1時間はキーボードによる実習を行います。 ①読譜（楽譜を読むようにする）②音楽理論（音名、音階、音程、コード等） ③キーボードを使用した基本的奏法の学習							
	条件	「ソルフェージュ」修得者は登録不可。							
	留意事項								
	必要なもの	副教材（購入）							
	評価・評定の方法	振り返りテスト、実技テスト、授業に向かう姿勢・態度の観察、プリント課題、出席状況等							
	観点別の評価	【知識・技能】音楽の基本的な理論について理解している。キーボードの簡単な奏法を身に付けている。 【思考・判断・表現】音楽理論の知識をもとにして演奏を工夫しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】わからないことは質問する等して解決しようとしている。キーボードについては根気よく練習を重ねようとしている。							
美術Ⅱ		対象年次	2～	単位数	2	定員	20	教材費	4000
芸術	学習内容	美術Ⅰの発展科目です。表現力や技術の向上を目指し、美術Ⅰで学習した内容をさらに深め、発展させます。美術が好きで主体的に作品制作に取り組める生徒に適した講座です。 【表現】・自画像（絵画） ・冊子制作（デザイン） 【鑑賞】・生徒作品の発表、鑑賞 ・映像鑑賞（様々なクリエイターのDVD等）							
	条件	美術Ⅰを履修していること。							
	留意事項								
	必要なもの	筆記用具							
	評価・評定の方法	作品、小テスト、プリント課題、授業に向かう姿勢・態度の観察、振り返り、出席の状況等							
	観点別の評価	【知識・技能】対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。 【思考・判断・表現】造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性豊かに発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深め、表現できている。 【主体的に学習に取り組む態度】主体的に美術の創造的な諸活動に取り組もうとしている。							

自由選択科目

芸術	デザイン基礎		対象年次	1~	単位数	2	定員	24	教材費	3000
	学 習 内 容	色と形を使い、様々な制作をすることで、モノをつくる感性や色彩感覚、発想力、考える力といったデザイン分野の基礎を学びます。 【表現】・文字デザイン（レタリング） ・色彩学習（配色ワーク） ・フッシュステンド（構図と構成） ・消しゴムスタンプ 【鑑賞】・生徒作品の発表、鑑賞 ・映像鑑賞（様々なクリエイターのDVD等）								
	条 件	1年次から4年次まで登録可								
	留 意 事 項	「デザイン基礎」を修得してから、次年度以降「発展デザイン」を学ぶことが望ましい。（1年次定員12名、2~4年次定員12名）								
	必 要 な も の	筆記用具								
	評価・評定の方法	作品、小テスト、プリント課題、授業に向かう姿勢・態度の観察、振り返り、出席の状況等								
	観 点 別 の 評 価	【知識・技能】表現の目的や意図に応じて、材料や用具の特性を理解し、制作の手順を考え、構想のイメージを的確に表現出来ている。								
		【思考・判断・表現】デザインの機能や効果、表現形式の特性などについて考え、創造的な表現の構想を練ることが表現できている。								
		【主体的に学習に取り組む態度】飾る、伝える、使う等のデザインの目的や条件、美しさを考え、主題を生成して取り組もうとしている。								
	写真		対象年次	2~	単位数	2	定員	16	教材費	7000
学 習 内 容	カメラを使用した写真撮影の基本的な知識や操作方法を学ぶだけでなく、フィルムを現像したネガを暗室で引き伸ばしプリントし作品を制作する技術を学びます。 【令和7年度の学習内容例】 ・カメラ撮影の基礎 ・デジタルカメラ・フィルムカメラの基本的な使い方 ・ポートレート撮影 ・スタジオ撮影実習（人物撮影 他者とコミュニケーションを取りながら撮影） ・暗室実習（ネガフィルムの引き伸ばし） 等									
条 件	授業内容が一部重なる「メディア表現」との同一年度での登録は勧めない。									
留 意 事 項	カメラは持参不要。									
必 要 な も の	暗室作業では作業に適した服装（エプロン、ジャージ等）									
評価・評定の方法	作品、テスト、授業に向かう姿勢・態度の観察、プリント課題、出席の状況等									
観 点 別 の 評 価	【知識・技能】写真の基礎・基本、仕組みを理解し、カメラと写真の特性を活かした作品を制作、表現しようとしている。									
	【思考・判断・表現】写真表現の特性を考えながら制作意図や創意工夫について考えている。写真や、写真の歴史と文化に対する見方や感じ方を深めている。									
	【主体的に学習に取り組む態度】写真や、写真の歴史と文化に豊かに関わり、他者とコミュニケーションをとりながら主体的に創作活動に取り組もうとしている。									
デッサン		対象年次	1~	単位数	2	定員	16	教材費	2000	
学 習 内 容	鉛筆や木炭を使ったデッサン・スケッチを通して、美術の基礎である観察する眼と表現する技術を養います。 集中して絵を描き続けられる向上心を持ち、主体的に絵を描ける生徒や、美術系大学や専門学校に進学を考えている生徒は受講することをお勧めします。 【令和6年度の学習内容例】 幾何形体デッサン(鉛筆)、静物デッサン(鉛筆)、石膏デッサン(木炭)、グレースケール作成(鉛筆)									
条 件	「素描」を修得していないこと。科目名変更による同一講座のため。									
留 意 事 項	なし									
必 要 な も の	一部描画材（鉛筆）などは各自で用意する。描画材（練りけし、木炭、紙）などを教材費で購入する。									
評価・評定の方法	作品、テスト、授業に向かう姿勢・態度の観察、プリント課題、出席の状況を下の三観点で評価する。									
観 点 別 の 評 価	【知識・技能】表現材料の特性を生かせるよう理解を深めると共に、対象を深く観察したことを基に表現を工夫して的確に表すことが出来る。									
	【思考・判断・表現】深い観察を通して、対象のイメージや空間を把握し、美しさを発見し、その形体や色彩、材質感などの表現が出来る。									
	【主体的に学習に取り組む態度】主体的に対象を見つめ考察を深めたり、表現材料などを研究し取り入れたりするなど、造形表現を追求している。									

自由選択科目

芸術	陶芸		対象 年次	2～	単位数	2	定員	16	教材費	4000	
	学 習 内 容	<p>陶土に親しみ、思い思いの形を作り、色（釉薬）を付けて焼成します。手作りのよさを体験し、生活の中で使う楽しさを味わうとともに文化的側面も学びます。</p> <p>1 前期は手びねりを中心に作品を作ります。 2 土と釉薬と焼成のしくみについて学びます。 3 前期後期を通して下絵付けについて学びます。 4 後期より電動ろくろによる制作を学びます。</p> <p>1年間を通して菊練りを習得します（菊練りは全身を使って粘土を練る作業です。汗をかいたり、服が汚れたりします）</p>									
	条 件	なし									
	留 意 事 項	初回授業から粘土を扱う為、授業開始前に各自作業着の用意をすること。									
	必 要 な も の	汚れてもいい恰好・エプロン等									
	評価・評定の方法	作品、テスト、授業に向かう姿勢・態度の観察、プリント課題、出席の状況を下の三観点で評価する。									
	観 点 別 の 評 価	【知識・技能】陶芸の良さを知り、意欲的・主体的に制作に取り組み、粘土表現の楽しさや奥深さを理解し、表現することが出来る。									
		【思考・判断・表現】主題に応じて表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表すことが出来る。									
		【主体的に学習に取り組む態度】他者の様式から表現の独自性を感じ取り、自己の構想と合わせて見方や感じ方を深めている。									
	発展デザイン		対象 年次	2～	単位数	2	定員	24	教材費	3000	
	学 習 内 容	<p>「デザイン基礎」よりもさらに専門的なデザインについて制作を通して学んでいきます。実際のデザイナーの仕事イメージし、クライアントやターゲットユーザーを意識し、コンセプトをたててデザインを行います。</p> <p>【令和7年度の学習内容例】 Lineスタンプ、ロゴデザイン、椅子デザイン、ジャケットデザインなど 作品のプレゼンテーション等も行う予定です。</p>									
	条 件	なし									
	留 意 事 項	絵の具の使用、絵を描くなどが苦手な人は受講を勧めません。									
	必 要 な も の	筆記用具									
	評価・評定の方法	作品、テスト、授業に向かう姿勢・態度の観察、プリント課題、出席の状況等									
観 点 別 の 評 価	【知識・技能】デザイン分野について深く探求し、表現の目的や意図に応じて、材料や用具の特性を理解し、制作の手順を考え、構想のイメージを的確に表現出来ている。										
	【思考・判断・表現】デザインの機能や効果、表現形式の特性などについて考え、創造的な表現の構想を練ることが出来ている。また、自分の考えたことを言葉や作品で表現しようとしている。										
	【主体的に学習に取り組む態度】飾る、伝える、使う等のデザインの目的や条件、美しさを考え、主体的に主題を生成して取り組んでいる。										
メディア表現		対象 年次	2～	単位数	2	定員	16	教材費	7000		
学 習 内 容	<p>カメラを使用したアニメーション制作と写真の様々な表現について学びます。物を作ったり、絵を描いたりすることがすることが好きな人が受講することをお勧めします。また、写真の撮影ではカメラだけでなくモデルになったりとコミュニケーションをとろうとする姿勢が必要です。</p> <p>【令和7年度の学習内容例】 アニメーションの原理・歴史について、ストップモーションアニメの制作、カメラの基本的な操作方法とスタジオ撮影、フィルムカメラを利用した校内スナップ撮影、暗室実習（ネガ引き伸ばし）</p>										
条 件											
留 意 事 項	「写真」との同年度登録は勧めない。カメラは持参不要。										
必 要 な も の	暗室作業では作業に適した服装（エプロン、ジャージ等）										
評価・評定の方法	作品、テスト、授業に向かう姿勢・態度の観察、プリント課題、出席の状況等										
観 点 別 の 評 価	【知識・技能】アニメーションや写真表現の成り立ちや歴史、原理について理解し、メディアの特性を活かした作品制作や、表現をしている。										
	【思考・判断・表現】アニメーションや写真表現の特性を活かし主題の構想を練っている。また、自分の作ったものについて言葉でも説明しようとしている。										
	【主体的に学習に取り組む態度】自己を見つめるだけでなく、他者とコミュニケーションを取りながら自分の表現したい内容を目指し意欲的に制作、撮影に取り組んでいる。										

芸術	彫金		対象年次	2～	単位数	2	定員	20	教材費	9000	
	学習内容	金属を素材とした工芸作品の制作を通して、金属加工についての知識、技術を学びます。また、制作工程をしっかりと踏むことの大切さを学びます。 【令和7年度の学習内容例】 ワックス成型による指輪制作、銀線ろう付け技法による指輪製作、真鍮のカトラリー製作									
	条件	「美術Ⅰ」や「工芸Ⅰ」を修得してからの履修がおすすめです。									
	留意事項	「銀」素材は高価なため、教材費が高額です。									
	必要なもの	作業に適した服装〔エプロン、ジャージ等でよい〕、靴〔サンダルなど肌が露出する靴は不可〕。									
	評価・評定の方法	作品、小テスト、授業に向かう姿勢・態度の観察、プリント課題、出席の状況等									
	観点別の評価	【知識・技能】金属の特性を理解し、制作物を捉える造形的な視点について理解している。									
		【思考・判断・表現】造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、彫金技法の働きなどについて考えている。現代の生活の中での工芸や、工芸の伝統と文化に対する見方や感じ方を深めている。									
		【主体的に学習に取り組む態度】現代の生活の中での工芸や、工芸の伝統と文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創作活動に取り組もうとしている。									
	工芸Ⅱ		対象年次	2～	単位数	2	定員	20	教材費	8000	
	学習内容	ものづくりの枠を超え、さまざまな生活の場を創造することへと広がりを見せる今日の工芸の役割について、よく調べ、考えていきます。 「工芸Ⅰ」の発展科目です。より発展的内容であるため難易度が上がります。習作や演習を重ね、実際の制作に入ります。 【令和7年度の学習内容例】 木彫額縁、スタンドグラス制作、染色等									
	条件	「工芸Ⅰ」を履修していること。									
	留意事項	なし									
	必要なもの	教科書									
評価・評定の方法	作品、小テスト、授業に向かう姿勢・態度の観察、プリント課題、出席の状況等										
観点別の評価	【知識・技能】素材について理解し、制作物を捉える造形的な視点について深く理解している。										
	【思考・判断・表現】造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、工芸の働きなどについて深く考えている。工芸や工芸の伝統と文化に対する見方や感じ方をより深めている。										
	【主体的に学習に取り組む態度】工芸や工芸の伝統と文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創作活動により積極的に取り組もうとしている。										
美術Ⅰ自		対象年次	2～	単位数	2	定員	20	教材費	3500		
学習内容	美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指します。次の内容を中心に学習します。 【表現】 絵画・彫刻…水彩画、水墨画、粘土造形 デザイン…色見本づくり、コラージュ等 【鑑賞】 生徒作品の発表・鑑賞、アーティスト・美術家等のDVD鑑賞										
条件	「美術Ⅰ」の履修が「美術Ⅱ」を登録する条件です。										
留意事項	なし										
必要なもの	教科書										
評価・評定の方法	授業中の取り組み状況・作品・出席状況を下の三観点で評価する。										
観点別の評価	【知識・技能】造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解している。										
	【思考・判断・表現】表現形式の特性を生かし、形体や色彩、構成などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。										
	【主体的に学習に取り組む態度】主体的に美術の幅広い創造活動に取り組もうとしている。										

芸術	工芸Ⅰ自		対象 年次	2~	単位数	2	定員	20	教材費	3500
	学 習 内 容	工芸の幅広い創作活動を通して、造形的な見方考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の工芸や工芸の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指します。 【令和7年度の学習内容例】 木彫のバターナイフ、籐籠編み、ろうけつ染め等								
	条 件	「工芸Ⅰ」の履修が「工芸Ⅱ」を登録する条件です。								
	留 意 事 項	刃物を用います。やすりがけや電動のこぎりで高い音が発生します。								
	必 要 な も の	教科書								
	評 価 ・ 評 定 の 方 法	作品、小テスト、授業に向かう姿勢・態度の観察、プリント課題、出席の状況等								
	観 点 別 の 評 価	【知識・技能】素材について理解し、制作物を捉える造形的な視点について理解している。 【思考・判断・表現】造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、工芸の働きなどについて考えている。工芸や工芸の伝統と文化に対する見方や感じ方を深めている。 【主体的に学習に取り組む態度】工芸や工芸の伝統と文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創作活動に取り組もうとしている。								
外国語（英語）	英語入門		対象 年次	1	単位数	2	定員	30	教材費	なし
	学 習 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・アルファベットから始めて、英語の表現・語彙・文法の基本を学びます。 ・授業は、講義形式だけでなく、体験的な形式も計画しています。 ・英語レベルでは、実用英語検定4級程度をめざします。 ・必修科目「英語コミュニケーションⅠ」を補う役目も果たします。 ・基礎的な内容しか扱いません。苦手意識をもつ生徒のみ受講してください。 								
	条 件	1年次限定								
	留 意 事 項	1年間継続して最後までじっくり英語の基礎を学ぶ意識をもつ生徒のみ受講してください。								
	必 要 な も の	問題集、辞書、ノート								
	評 価 ・ 評 定 の 方 法	各課ごとのふりかえりテスト、授業への取り組み、小テスト、提出物などを総合的に判断する。								
	観 点 別 の 評 価	【知識・技能】英語の文章を読解することができ、基礎的な文法事項を理解している。 【思考・判断・表現】内容について深く考える力があり、正確な情報を文章や会話で伝えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】積極的に授業に参加し、主体的に学ぼうとしている。								
	論理・表現Ⅰ		対象 年次	2~5	単位数	2	定員	30	教材費	なし
	学 習 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・この科目は、高校英語に必要な文法事項の学習とともに、英語でコミュニケーションを図る態度と、英語会話の基礎的な能力を養うことを目標としています。 ・様々な話題について、英語で読み、英語で聞いたり話したりします。 ・外国人指導員による会話演習も年間に何回か計画しています。 ・「英語コミュニケーションⅠ」を履修した生徒は「英語コミュニケーションⅡ」を登録する前年に本講座を受講すると難易度に無理がなく履修できます。 								
	条 件	2・3・4年次対象（新6年次不可）								
留 意 事 項	「英語コミュニケーションⅠ」を履修していることが望ましい。									
必 要 な も の	テキスト、サブノート、辞書、ノート等									
評 価 ・ 評 定 の 方 法	各課ごとのふりかえりテスト、スピーキングテスト、授業への取り組み、小テスト、提出物などを総合的に判断する。									
観 点 別 の 評 価	【知識・技能】英語の文章を聴き取ることができ、基礎的な文法事項を理解している。 【思考・判断・表現】内容について深く考える力があり、正確な情報を文章や会話で伝えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】積極的に授業に参加し、主体的に学ぼうとしている。									

外国語（英語）	英語コミュニケーションⅡ		対象年次	2～	単位数	4	定員	30	教材費	なし
	学 習 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・「英語コミュニケーションⅠ」又は「コミュニケーション英語Ⅰ」履修者対象の科目です。さらに深く英語4技能(「聴く」「話す」「読む」「書く」)を週4時間の授業でじっくり修得したい方向けの授業です。 ・課題が大量に出るので、自学自習の習慣を身に付けることが望ましいです。 ・「英語コミュニケーションⅠ」履修者は、2年次で「論理・表現Ⅰ」を履修した後に3年次で本講座を履修すると無理なく単位取得できるでしょう。 ・本講座が目指しているのは、単位の取得に留まらない、本当に使える英語力の育成です。受け身で受講するだけでは効果は得られません。「教えられる」のではなく「つかみ取る」気持ちで臨んでください。 ・外国人指導員による授業も年間に何週か予定しています。 								
	条 件	必修履修科目「コミュニケーション英語Ⅰ」または「英語コミュニケーションⅠ」を履修していること。								
	留 意 事 項	旧課程の「コミュニケーション英語Ⅱ」の代替科目になります。								
	必 要 な も の	教科書、ワークブック、辞書、ノート等								
	評価・評定の方法	各課ごとのふりかえりテスト、授業への取り組み、小テスト、提出物などを総合的に判断する。								
	観 点 別 の 評 価	<p>【知識・技能】一定の支援を活用すれば、英語の文章を読解することができ、ある程度の文法事項を理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】積極的に授業に参加し、粘り強く主体的に学ぼうとしている。</p>								
家庭・社会福祉	映画で英語		対象年次	2～	単位数	2	定員	30	教材費	なし
	学 習 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・様々なジャンルの映画を英語音声+日本語字幕で鑑賞し、英語力向上と異文化理解を深めます。 ・まず英語をフルバージョンで鑑賞します。その後ワークシートを使いながら、内容理解やセリフの練習を行います。映画の背景にある歴史や、作中のトリビアなどをJETの説明から学びます。 ・セリフの練習等はペアワークがほとんどです。年次を問わず、コミュニケーションを取りながら進める必要があります。 ・基礎的な英語力は必要です。映画を楽しみながら英語力を磨きたい方のみ受講してください。「映画はラクそう」「英語は嫌いだけど映画は好き」という安易な気持ちでの受講は望ましくありません。 								
	条 件	2年次以上								
	留 意 事 項	「英語コミュニケーションⅠ」または「コミュニケーション英語Ⅰ」を履修していることが望ましい。								
	必 要 な も の	筆記用具、電子端末								
	評価・評定の方法	ふりかえりテスト、授業への取り組み、小テスト、提出物などを総合的に判断する。								
	観 点 別 の 評 価	<p>【知識・技能】英語の文章を聞き取ることができ、基礎的な文法事項を理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】内容について深く考える力があり、正確な情報を文章や会話で伝えることができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】積極的に授業に参加し、主体的に学ぼうとしている。</p>								
家庭・社会福祉	保育		対象年次	2～	単位数	2	定員	20	教材費	¥1,500（教材費）
	学 習 内 容	<p>乳幼児の発達の特徴や保育に関する知識と技術に関して理解を深めていく科目です。</p> <p>(1) 子どもの保育 (2) 子どもの発達 (3) 子どもの生活 (4) 子どもの福祉 (5) 子どもの文化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践的な学習に重点を置き、意見交流や近隣保育園での実習、作品制作等を行います。 ・クラスメイトや乳幼児、子どもにかかわる専門職に従事する方等、多くの人と関わりながら学習を進めます。 								
	条 件	特になし								
	留 意 事 項	ペアやグループでの学習をしたり、人前で発表したりする事が多くあります。実習時には長い爪やアクセサリー類禁止。								
	必 要 な も の	《保育実習時》ジャージ、体育館履き 《調理実習時》エプロン、三角巾、手拭きタオル								
	評価・評定の方法	確認テスト、課題への取り組み、学習過程、学習意欲、発表等を総合して評価する。								
	観 点 別 の 評 価	<p>【知識・技能】保育の意義や方法、子どもの発達や生活の特徴及び子供の福祉と文化などについて体系的・系統的に理解している。また、これに関連する基礎的な技術を身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】乳幼児の発達や保育について、課題を見つけ解決することができる。保育に関する様々な課題や保育技術等について考察し、表現できる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】子どもの健やかな発達を目指して学び、保育に主体的かつ協動的に取り組もうとしている。授業に必要な準備を整え、授業に参加して話を聞き、課題に積極的に取り組もうとしている。</p>								

家庭・社会福祉	手芸	対象 年次	2～	単位数	2	定員	20	教材費	¥3,000（実習教材費）	
	学 習 内 容	手縫いの基礎、材料の取り扱いや手芸の種類と変遷、各種手芸の技法などに関する知識を習得するとともに、簡単な手芸品の製作を通して技術を身につける科目です。 （１）基礎縫い （２）小物づくり（刺し子・ポーチ・染色・刺繍・羊毛など） 手芸に興味があり、細かい作業が好きで、根気よく手作業を続けられる人にお勧めします。								
	条 件	特になし								
	留 意 事 項	期限までに課題作品を完成させ、提出すること。文化祭・学習成果発表会で作品を展示する。作品の持ち帰りは禁止です。								
	必 要 な も の	裁縫道具（縫い針、待ち針、針山）を持参する								
	評 価 ・ 評 定 の 方 法	確認テスト、課題への取り組み、作品の提出、学習過程、学習意欲、出席数を加味して評価する。								
	観 点 別 の 評 価	【知識・技能】様々な手芸の技法を理解し、作品を完成させている。								
		【思考・判断・表現】技法を学び、より完成度が高まるよう考え、工夫することができる。与えられた条件を満たし、独創的に表現できる。								
		【主体的に学習に取り組む態度】授業に参加し、指示をよくきき、意欲的に取り組もうとしている。必要な準備を整え、授業にのぞんでいる。様々な技法にチャレンジしようとしている。								
	被服	対象 年次	2～	単位数	2	定員	16	教材費	¥5,800（実習材料費）	
学 習 内 容	手縫いの方法や、ミシンの使い方を覚え、洋裁の基礎と和裁の基礎を学習します。甚平を完成させ、小物を作成する中で、被服構成の特徴や被服の文化などに関する知識を習得します。 （１）基礎縫い （２）ミシンの使い方 （３）甚平下衣（パンツ）製作 （４）甚平上衣製作 （５）小物製作									
条 件	特になし									
留 意 事 項	作品を自宅に持ち帰って作業することはできません。									
必 要 な も の	裁縫セット（縫い針、待ち針、針山、糸切ばさみ）									
評 価 ・ 評 定 の 方 法	振り返りテスト、ミシンの基本操作実技テスト、学習過程、学習意欲、作品の完成・提出、出席数を加味して評価する。単位修得のためには、甚平の完成が必須課題となる。									
観 点 別 の 評 価	【知識・技能】ミシンやアイロンの準備、設定が一人で正しくでき、安全に使用できる。手縫いの方法を理解し、待ち針や糸切ばさみなどの裁縫道具を使って、基礎縫いや玉止めができる。									
	【思考・判断・表現】課題を理解し、自分で取り組むことができる。継続していくなかで、経験したやり方を覚え、2回目以降、同じようにしたり、応用したりできる。わからない時には自分から質問することができる。									
	【主体的に学習に取り組む態度】持ち物や身支度など授業に必要な準備を整え、授業に参加して説明を聞き、積極的に取り組もうとしている。									
食物	対象 年次	2～	単位数	2	定員	16	教材費	¥6,000（実習材料費）		
学 習 内 容	調理に関する基本的な知識を習得し、食生活に関する理解を深めるとともに、野菜の切り方や調理操作（焼く、煮るなど）調理に関する基本的な技術を身につけることを目標とし、主に実習を通して学びます。 （１）調理の基本 （２）基本的な食品の扱い方 （３）野菜の切り方 （４）日常食の献立と調理 （５）食品加工 （６）食生活のデザイン （７）食文化 （８）食事のマナー ※実習がメインの授業のため、授業に出席して積極的に取り組むことに重点を置いて評価をします。									
条 件	R6年度までに「食物Ⅰ」「食物Ⅱ」両方を修得している人は登録できません。									
留 意 事 項	アクセサリー（ピアス、ネックレス、指輪等）、マニキュア、長い爪は禁止。長い髪は結ぶ。★食物アレルギーのある人は登録決定後に必ず担当に相談すること。									
必 要 な も の	エプロン（胸当て付き）、三角巾、手ふき用タオル									
評 価 ・ 評 定 の 方 法	授業への取り組み（態度、身支度等を含む）、振り返りテスト（筆記、実技）、ワークシート提出									
観 点 別 の 評 価	【知識・技能】調理器具の使い方や、調理方法を理解して取り組むことができる。食品の特性を考慮して扱い、調理することができる。安全に気を付けて、調理を行うことができる。									
	【思考・判断・表現】時間配分や手順を考えて効率よく調理を進めることができる。テーマや課題に沿った献立を考え、調理することができる。									
	【主体的に学習に取り組む態度】持ち物や身支度など授業に必要な準備を整え、授業に参加して説明を聞き、積極的に取り組もうとしている。									

家庭・社会福祉	住生活		対象年次	2~	単位数	2	定員	20	教材費	¥3,500(実習費)	
	学 習 内 容	住生活に関し、講義と実習を通して幅広い知識を身につけます。 (1) 日本や世界の住居 (2) 住まいに関する安全(震災)、整理整頓 (3) インテリアデザイン、カラーコーディネート (4) 家庭園芸(花の育て方) (5) 地域調べ (6) 実習:過去の实習例:石鹸作り、光のモビール、部屋の縮小模型など									
	条 件	特になし									
	留 意 事 項	家庭園芸やスワッグ作りでグラウンド周辺の草木に触れます。									
	必 要 な も の	実習によって、ジャージ等の作業に適した服装									
	評価・評定の方法	確認テスト、課題への取り組み、作品の提出、学習過程、学習意欲、作品の完成、出席数を加味して評価する。									
	観 点 別 の 評 価	【知識・技能】日本と世界の住文化の特徴、快適で安全な住空間について理解している。									
		【思考・判断・表現】住生活の問題を見出し、より快適で安全な住生活を工夫することができる。									
		【主体的に学習に取り組む態度】授業に参加して話を聞き、積極的に取り組もうとしている。与えられた課題に対し、自分で考え工夫しようとしている。									
	社会福祉		対象年次	2~	単位数	2	定員	16	教材費	¥500(食事介助実習費)	
	学 習 内 容	障がい者、高齢者について、基本的な知識と基礎的な介護技術を学習します。 障がい者理解、片マヒの介助、自立を支える福祉用具、車いすの操作、コミュニケーション演習、レクリエーション演習、食事介助、体位変換など。 ・介護福祉士、保育士などの資格をもった特別専門講師が授業を行います。 ・ペアやグループで実習を行います。									
	条 件	特になし									
	留 意 事 項	男女年次を問わずペアでの介護実習を行う。互いの体の支え、手足を触る、洗う、嚙下体験、介護服の着脱など多岐にわたる。									
	必 要 な も の	実習時は、ジャージ及び体育館履き(車いす実習はグラウンド履きも使用する)に着替えるので毎時間準備する。									
	評価・評定の方法	授業内での取り組み、授業記録、確認テスト									
観 点 別 の 評 価	【知識・技能】社会福祉に関する知識を理解している。基本的な看護・介護の技術を身につけている。										
	【思考・判断・表現】社会福祉について課題をみつけ解決しようとするすることができる。										
	【主体的に学習に取り組む態度】必要な準備を整え授業に参加し、意欲的に取り組もうとしている。										
手話		対象年次	2~	単位数	2	定員	20	教材費	0		
学 習 内 容	聴覚障がい者の生活に欠かせない「手話」を学ぶことを通じて、聴覚障がいのある方に対する理解と交流をはかります。 (1) 指文字 (2) ジェスチャー (3) 手話表現 (4) 手話歌 (5) 聴覚障がい者の生活や社会など ・ペアやグループでの学習を通して実技を学びます。 ・年間を通して、手話の実技指導は特別専門講師が担当します。 ・定期考査で手話の読み取りテストと実技テストを実施します。										
条 件	特になし										
留 意 事 項	表情や口の形を使った表現が必要なため、授業中はマスク着用不可とします。										
必 要 な も の	準教科書										
評価・評定の方法	授業内での取り組み(手話の発表)、授業記録、確認テスト(表現、読み取り)、レポート課題など										
観 点 別 の 評 価	【知識・技能】基本的な指文字や手話表現を理解し、読み取ったり、表現したりすることができる。										
	【思考・判断・表現】聴覚障がい者の視点に立ち、自分ができていることを考えたり、手話などによる表現を工夫することができる。										
	【主体的に学習に取り組む態度】学習内容を使って積極的にコミュニケーションをとろうとしたり、学習内容を自らの生活に生かそうとしている。										

家庭・社会福祉	点字		対象年次	2～	単位数	2	定員	20	教材費	¥500(点字用紙など)	
	学 習 内 容	視覚障がい者への理解を深めることを目的とし、視覚障がい者が利用する「点字」の読み・書き（打ち）から文法までを学び、「点訳」ができる段階を目指します。 (1) 点字の読み方・書き方 (2) 視覚障がいとは～視覚障がい者の生活 (3) 絵本の点訳 ・年間を通して、特別専門講師が授業を担当します。									
	条 件	特になし									
	留 意 事 項	視覚障がい者の講師とともに盲導犬が同行する。（盲導犬に声をかけたり触ることはできません）									
	必 要 な も の	準教科書									
	評 価 ・ 評 定 の 方 法	確認テスト（点字の読み書き）、課題への取り組み状況、授業記録、授業態度等									
観 点 別 の 評 価	【知識・技能】点字の基礎的な知識を理解し、点字を読んだり、書いたりすることができる。										
	【思考・判断・表現】視覚障がい者の生活を理解し、自分と違う状況にある人が持っている困りごとを想像し、自分にできることは何かを考え、表現することができる。										
	【主体的に学習に取り組む態度】授業に必要な準備を整えて授業に参加し、課題に積極的に取り組もうとしている。										
情 報	情報Ⅰ 再		対象年次	2～	単位数	2	定員	27	教材費	なし	
	学 習 内 容	コンピュータの基本的な学習を行います。座学を中心に、実習を交えながら学習します。 第1章 情報社会とわたしたち 第2章 コミュニケーションと情報デザイン 第3章 コンピュータとプログラミング 第4章 情報通信ネットワークとデータの活用									
	条 件	2年次以上									
	留 意 事 項	特になし									
	必 要 な も の	1年次の教科書を使用します。※副教材は新規に購入します。									
	評 価 ・ 評 定 の 方 法	毎授業で振り返りテスト・授業内成果物・ノート提出・単元テストなど、総合的に評価									
	観 点 別 の 評 価	【知識・技能】コンピュータやデータの活用について理解し、技能を身につけ理解している。									
		【思考・判断・表現】問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いて考察し、表現できる。									
		【主体的に学習に取り組む態度】主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。									
	情報の基礎		対象年次	1～	単位数	2	定員	25	教材費	なし	
学 習 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ローマ字入力練習 文書作成ソフト（簡単な文書入力、ビジネス文書入力） 表計算ソフト（関数の基礎から発展、実務作業） プレゼンテーションソフト（簡単なプレゼンテーション作成、発表） 各種アプリケーション総合実習（アプリの連携、複合作業） 										
条 件	社会人に必要なICT操作の基礎を学びたい人										
留 意 事 項	基礎練習の反復であるため、同じ作業の繰り返しが苦手な人には向かない。実習中心の科目である。										
必 要 な も の	副教材										
評 価 ・ 評 定 の 方 法	授業内成果物・ノート提出・単元テストなど、総合的に評価										
観 点 別 の 評 価	【知識・技能】コンピュータの基本操作、各アプリケーションの活用について技能を身につけ理解している。										
	【思考・判断・表現】問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いて考察し、表現できる。										
	【主体的に学習に取り組む態度】主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。										

自由選択科目

工業実習 A		対象 年次	1~	単位数	2	定員	20	教材費	なし
工業	学 習 内 容	自動車・木工・回路について、1パート8~10週程度のローテーションをして学習します。 <学習内容> 自動車 ：(1) 自動車の基礎知識 (2) エンジンの分解・組立実習 木工 ：(1) 木材の性質 (2) 木工工具の基本的な使い方 (3) 木材の加工方法を学習し、木工作品を作る 回路 ：(1) 電気回路の基礎 (2) 各種電子工作 (3) 電気工事の基礎							
	条 件	なし							
	留 意 事 項	自動車・木工・回路のすべてを学びます。好きな内容を選んだ学習はできません。欠席の多い生徒の受講には向かない。							
	必 要 な も の	実習服(上着・ズボン)・帽子							
	評 価 ・ 評 定 の 方 法	出席状況・授業態度(安全管理を含む)・作品・レポート等を総合的に判断する。							
	観 点 別 の 評 価	【知識・技能】 図面や配線図の図記号や書きかたについて理解している。作品をどのような工具を使い、どのような手順で加工をすればよいか理解している。 【思考・判断・表現】 どのような手順で作業を行えばよいか考え、安全に作業をするためにはどんな点に留意が必要か判断し、レポートにおいて、自分が考えたり感じたことについて考察し、表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業へ積極的に参加し、安全に作業を行おうとしている。ものを大切に扱おうとしている。整理整頓や後片付けを大切にしようとしている。材料をムダ使いしないなど環境に配慮しようとしている。							
工業実習 B		対象 年次	1~	単位数	2	定員	18	教材費	なし
工業	学 習 内 容	フライス・溶接・アプリケーションについて、1パート8~10週程度のローテーションをして学習します。 <学習内容> フライス ：(1) フライス盤の基本操作 (2) 六面体の加工 溶 接 ：(1) アーク溶接の基本操作 アプリ ：(1) MicrosoftOfficeの基礎 (2) MicrosoftOfficeの応用 (3) マインドストーム など							
	条 件	なし							
	留 意 事 項	高速回転体、電気や熱を扱う危険な作業を伴う。欠席の多い生徒の受講には向かない。フライス・溶接・アプリのすべてを学びます。好きな内容を選んだ学習はできません。							
	必 要 な も の	実習服(上着・ズボン)・帽子							
	評 価 ・ 評 定 の 方 法	出席状況・授業態度(安全管理を含む)・作品・レポート等を総合的に判断する。							
	観 点 別 の 評 価	【知識・技能】 図面の図記号やコンピュータの基本操作について理解している。作品をどのような工具を使い、どのような手順で加工をすればよいか、アプリケーションをどのように操作すればよいか理解している。 【思考・判断・表現】 どのような手順で作業を行えばよいか考え、安全に作業をするためにはどんな点に留意が必要か判断し、レポートにおいて、自分が考えたり感じたことについて考察し、表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業へ積極的に参加し、安全に作業を行おうとしている。ものを大切に扱おうとしている。整理整頓や後片付けを大切にしようとしている。材料をムダ使いしないなど環境に配慮しようとしている。							
工業実習 C		対象 年次	1~	単位数	2	定員	10	教材費	なし
工業	学 習 内 容	板金・旋盤・製図について、1パート12~16週程度のローテーションをして学習します。 <学習内容> 板金 ：(1) 板金の加工技術 (2) 金属の切断加工や曲げ加工 (3) 実用的な作品制作 (例年、移植ごてや工具箱、くんせい器(スモーク)を製作していますが、必ずしも同じ作品を作るとは限りません。) 旋盤 ：(1) 旋盤の基本操作 (2) 金属端面の切削、端面の加工 (3) 段つき加工、面取り加工 製図 ：手書きまたはCADを使った課題を通して、図面が「読める・描ける」力を身につける。							
	条 件	なし							
	留 意 事 項	高速回転体、打撃、圧力をかけるなど危険な作業を伴う。欠席の多い生徒の受講には向かない。板金・旋盤の両方を学ぶとともに、図面の読み方、描き方について学習します。好きな内容を選んだ学習はできません。							
	必 要 な も の	実習服(上着・ズボン)・帽子							
	評 価 ・ 評 定 の 方 法	出席状況・授業態度(安全管理を含む)・作品・レポート等を総合的に判断する。							
	観 点 別 の 評 価	【知識・技能】 板金の方法や旋盤の基本操作について理解している。作品をどのような工具を使い、どのような手順で加工をすればよいか、旋盤をどのように操作すればよいか理解している。 【思考・判断・表現】 どのような手順で作業を行えばよいか考え、安全に作業をするためにはどんな点に留意が必要か判断し、レポートにおいて、自分が考えたり感じたことについて考察し、表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業へ積極的に参加し、安全に作業を行おうとしている。ものを大切に扱おうとしている。整理整頓や後片付けを大切にしようとしている。材料をムダ使いしないなど環境に配慮しようとしている。							

自由選択科目

工業実習D		対象 年次	2~	単位数	2	定員	10	教材費	なし	
工業	学 習 内 容	フライス盤、旋盤を使った課題に取り組み、図面の書き方、読み方についても学習します。 <学習内容> 旋 盤：旋盤を活用し、課題や部品の作成を通して機械加工を学習する。 フライス盤：フライス盤を活用し、課題や部品の作成を通して機械加工を学習する。 製図：手書きまたはCADを使った課題を通して、図面が「読める・描ける」力を身につける。								
	条 件	なし								
	留 意 事 項	高速回転体、重量のある物を扱い危険を伴う。欠席の多い生徒の受講には向かない。旋盤・フライス盤の両方を学び、図面の読み方や、描き方について学習します。好きな内容を選んだ学習はできません。								
	必 要 な も の	実習服（上着・ズボン）・帽子								
	評価・評定の方法	出席状況・授業態度（安全管理を含む）・作品・レポート等を総合的に判断する。								
	観 点 別 の 評 価	【知識・技能】 フライス盤や旋盤の基本操作について理解している。作品をどのような工具を使い、どのような手順で加工をすればよいか、旋盤をどのように操作すればよいか理解している。								
		【思考・判断・表現】 どのような手順で作業を行えばよいか考え、安全に作業をするためにはどんな点に留意が必要か判断し、レポートにおいて、自分が考えたり感じたことについて考察し、表現できる。								
		【主体的に学習に取り組む態度】 授業へ積極的に参加し、安全に作業を行おうとしている。ものを大切に扱おうとしている。整理整頓や後片付けを大切にしようとしている。材料をムダ使いしないなど環境に配慮しようとしている。								
	計算・ワープロ実習		対象 年次	1~	単位数	2	定員	20	教材費	3級…¥2,300 4級…¥1,800
	工業	学 習 内 容	日本情報処理検定協会主催“日本語ワープロ検定（3級）”および“情報処理技能検定試験 表計算（3級）”の合格相当を目指して、次の事柄を学習する。 (1) 日本語ワープロソフトの有効な利用を通じて、日本語の入力（10分間で300文字以上の入力速度）および正確で体裁の良い文書作成能力を身につける。 (2) パソコンの表計算ソフトの有効な利用を通じて、情報処理能力を身につけるとともに、情報化社会の中でコンピュータ活用能力の向上を身に付ける 副教材：『日本語ワープロ 3・4級編（日本情報処理検定協会）』、『情報処理技能検 3・4級編（日本情報処理検定協会）』							
条 件		なし								
留 意 事 項		希望者は、受講年度に「情報処理技能検定試験 表計算」および「日本語ワープロ検定」を受験する。								
必 要 な も の		副教材、検定試験の検定料が必要								
評価・評定の方法		出席状況・授業態度・提出物等を総合的に判断する。								
観 点 別 の 評 価		【知識・技能】 ワープロや表計算の基本操作について理解している。表計算で基本的な計算を行い、どのような手順で文書作成をすればよいか、コンピュータをどのように操作すればよいか理解している。								
		【思考・判断・表現】 どのような手順で操作を行えばよいか考え行動でき、また、確実に計算をするためにはどんな点に留意が必要かについて考察し、表現できる。								
		【主体的に学習に取り組む態度】 授業へ積極的に参加し、確実に操作を行おうとしている。また、ものを大切に扱おうとしている。整理整頓や後片付けを大切にしようとしている。								
コンピュータグラフィックス		対象 年次	1~	単位数	2	定員	14	教材費	なし	
工業		学 習 内 容	(1) 2DCG(2次元コンピュータグラフィックス)ソフトウェアの使い方を学ぶ。 (2) 3DCG(3次元コンピュータグラフィックス)ソフトウェアの使い方を学ぶ。 (3) 2DCGの作成方法を学ぶ。 (4) 3DCGの作成方法を学ぶ。 (5) 3DCGのアニメーションを作成する。 * 科学技術や医療、デザイン、ゲーム業界をはじめ、さまざまな分野で注目を集めている内容です。 * 本校で使われているCG作成ソフトは、業界の第一線で使われているソフトです。							
	条 件	コンピュータの操作に関する基本的な知識・技術（日常的な使用程度）を有していること。								
	留 意 事 項	なし								
	必 要 な も の	学習意欲								
	評価・評定の方法	出席状況・授業態度・作品等を総合的に判断する。								
	観 点 別 の 評 価	【知識・技能】 CGソフトの取り扱い方法やグラフィックスの基本について理解している。コンピュータで基本的な計算を行う、どのような手順でCG作成をすればよいか、コンピュータをどのように操作すればよいか理解している。								
		【思考・判断・表現】 どのような手順で操作を行えばよいか考え行動でき、確実に描画をするためにはどんな点に留意が必要か判断し操作について考察し、表現できる。								
		【主体的に学習に取り組む態度】 授業へ積極的に参加し、確実に操作を行おうとしている。コンピュータを大切に扱おうとしている。整理整頓や後片付けを大切にしようとしている。								